

(案)

第 2 期

苫小牧市スポーツ推進計画

～ まちが輝く、人が輝く、スポーツの力で ～

令和 8 年度(2026 年度) から 令和 12 年度(2030 年度)まで



令和 8 年 3 月
苫小牧市

ス ポ ー ツ 都 市 宣 言

(昭和 41 年 11 月 12 日宣言)

わたくしたち苫小牧市民はスポーツを愛し、スポーツを通じて健康でたくましい心と体をつくり、豊かで明るい都市を築くため次の目標をかかげて、ここに「スポーツ都市」を宣言します。

- 1 市民すべてがスポーツを楽しみましょう。
- 2 力をあわせてスポーツのできる場をつくりましょう。
- 3 次代をになう青少年のため、地域にも職場にもスポーツの機会をつくりましょう。
- 4 世界に活躍できる市民を育てて広く世界の人と手をつなぎましょう。

はじめに

本市は、昭和 41 年に全国で初めて「スポーツ都市宣言」を行い、スポーツを通じて、健康でたくましい心と体を育み、豊かで活力あるまちづくりを目指してまいりました。

平成 28 年には「苦小牧市スポーツ推進計画」を策定し、基本理念である「活みなぎるスポーツ都市とまこまい」の実現に向け、様々なスポーツ振興施策を推進してきたところです。

この間、令和 5 年度全国高等学校総合体育大会ソフトテニス・テニス競技大会、第 78 回国民スポーツ大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会や第 25 回オリンピック冬季競技大会 2025 女子アイスホッケー最終予選など、全国・世界規模の大会が本市で開催され、多くの市民がスポーツの魅力やその持つ力を改めて実感する機会となりました。

そして本年、スポーツ都市宣言から 60 周年という大きな節目を迎え、これまでの歩みを振り返るとともに、さらにスポーツの力をまちづくりに活かしていく決意を新たにしています。

市民の皆様一人ひとりが、それぞれの形でスポーツに親しみ、健康でいきいきと暮らせるまちの実現に向けて、本計画の推進に御理解と御協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

結びにあたり、本計画の策定に御尽力いただいた苦小牧市スポーツ推進審議会の委員の皆様をはじめ、関係団体や関係者の皆様、またアンケート調査に御協力いただき、貴重な御意見をお寄せいただいた市民の皆様に深く感謝を申し上げます。

令和 8 年 3 月

苦小牧市長 金 澤 俊



〔 目 次 〕

≪ 第 1 章 ≫ 計画策定にあたって P 3

- 1 計画の趣旨
- 2 計画の位置づけ
- 3 計画の期間
- 4 本計画におけるスポーツの定義

≪ 第 2 章 ≫ スポーツを取り巻く環境と課題 P 4 ～16

- 1 スポーツに関する国や北海道の動向
- 2 社会情勢等の変化
- 3 本市における現状（前計画の総括）と課題
 - (1) 8つの方針とこれまでの取組状況
 - (2) 本市の課題

≪ 第 3 章 ≫ 計画の基本的な考え方 P17～20

- 1 基本的な考え方
- 2 基本理念
- 3 計画の方針と施策
- 4 成果指標と目標数値

≪ 第 4 章 ≫ 目標達成に向けた主な事業展開 P21～25

- 1 各方針に対する具体的な施策

≪ 資 料 編 ≫ P26～57

- 1 苫小牧市民の運動・スポーツ活動実態調査概要
- 2 障がいのある方の運動・スポーツ活動実態調査概要
- 3 苫小牧市での合宿に関する調査概要
- 4 スポーツ指導者の実態調査概要
- 5 スポーツ施策に関する調査概要
- 6 各調査データ（グラフ）
- 7 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査（抜粋）
- 8 苫小牧市スポーツ推進審議会条例
- 9 苫小牧市スポーツ推進審議会委員名簿
- 10 苫小牧市スポーツ推進審議会等審議経過

《 第 1 章 》 計画策定にあたって

1 計画の趣旨

本市では、国が策定した「第1次スポーツ基本計画」の考え方を踏まえ、より効率的・効果的にスポーツの推進を図るため、平成28年9月に「苫小牧市スポーツ推進計画」を策定し、その後、令和3年度に中間見直しを行い、基本理念として掲げた「活みなぎるスポーツ都市とまこまい」の実現に向け、様々なスポーツ振興の施策を進めてきました。

また、この間、人口減少や少子高齢化の進行、デジタル化の進展、ライフスタイルの多様化などのほか、世界的にまん延した新型コロナウイルス感染症は、日常生活に制限をもたらし、スポーツ分野においても競技大会、イベントなどの延期や中止を余儀なくされるなど、社会状況やスポーツを取り巻く環境は大きく変化しました。

一方で、東京2020、北京2022、パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会における本市ゆかりのアスリートの活躍は、多くの市民に勇気や希望、感動をもたらし、スポーツへの関心を高めるとともに、スポーツの価値と、そして「スポーツの力」を再認識する機会となりました。

いつの時代にあっても、「スポーツの力」には計り知れないものがあります。

身体的効果、精神的効果、社会的効果、教育的効果、そして経済的効果など、スポーツは単に身体を動かすだけでなく、個人の生活の質を向上させ、社会全体にも良い影響を与える重要な活動です。

こうした背景を踏まえ、前計画の取組結果や、スポーツを取り巻く現状と課題の整理により、「スポーツの力」を最大限に活用し、市民が一体となって本市のスポーツ推進に取り組むことができるよう「第2期苫小牧市スポーツ推進計画」（以下「本計画」という）を策定します。

2 計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法第10条に基づく「地方スポーツ推進計画」として策定するものであり、国の「スポーツ基本計画」及び北海道の「北海道スポーツ推進計画」を踏まえ、上位計画である「苫小牧市総合計画」との整合性を図りながら、個別計画として本市のスポーツ推進をより具体化するものです。

3 計画の期間

本計画の計画期間は、令和8年度（2026年度）から令和12年度（2030年度）までの5年間とします。

4 本計画におけるスポーツの定義

本計画における「スポーツ」とは、ルールに基づいて勝敗や記録を競う運動競技のみならず、体力向上、健康維持のための軽い運動（散歩やラジオ体操等）やレクリエーション（キャンプ活動その他の野外活動を含む）なども含むものとしています。

《 第 2 章 》 スポーツを取り巻く環境と課題

1 スポーツに関する国や北海道の動向

(1) 国の動向

国では、令和 4 年（2022 年）3 月に、「第 3 期スポーツ基本計画」が策定されました。

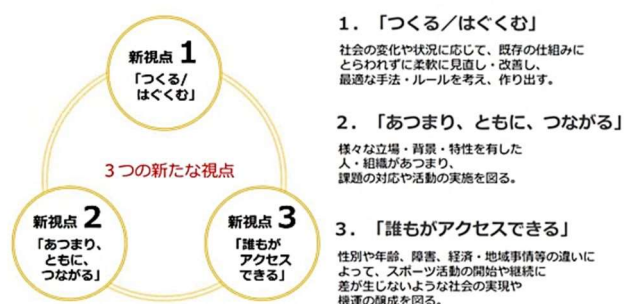
この計画では、スポーツを「する」「みる」「ささえる」という様々な参画を通じて、より多くの人がスポーツの楽しさや感動を分かち合うような「スポーツ文化」の成熟に向けて、必要な方針や具体的施策等が示されました。

第 2 期計画において掲げた 4 つの中長期的な基本方針「①スポーツで『人生』が変わる」、「②スポーツで『社会』を変える」、「③スポーツで『世界』とつながる」、「④スポーツで『未来』を創る」は、今後も踏襲したうえで、社会情勢の変化やスポーツを取り巻く環境に対し、持続可能な社会の実現を目指していくため「する」、「みる」、「ささえる」という視点に加え、新たな 3 つの視点「つくる/はぐくむ」、「あつまり、ともに、つながる」、「誰もがアクセスできる」が追加されました。

(2) 北海道の動向

北海道では、令和 4 年（2022 年）3 月に、地域の特性を生かし、スポーツを通じて健康で豊かな生活の形成と魅力ある人づくりや地域づくりを推進するとともに、将来にわたる持続可能な社会の実現に寄与することを目的として、「北海道スポーツ推進条例」が新たに公布・施行されました。

また、スポーツを取り巻く環境や社会状況が大きく変動していく中であって、「スポーツの持つ力」を最大限活用し、「北海道の潜在力」を発揮しながら、本道のスポーツの推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、令和 5 年度（2023 年度）から 5 年間を計画期間とする「第 3 期北海道スポーツ推進計画」が策定されました。今後、新たな計画のもと、官民連携組織である「北海道スポーツみらい会議」と連携するなどオール北海道で推進を行っています。



出典：第 3 期スポーツ基本計画



出典：第 3 期北海道スポーツ推進計画

《 第 2 章 》 スポーツを取り巻く環境と課題

2 社会情勢等の変化

(1) 人口減少・少子高齢化の進行

本市は、現在人口で道内 4 位の都市に成長しましたが、全国的に進行する人口減少・少子高齢化の中で、本市も同様の局面を迎えています。

北海道内の他都市との比較では、本市の人口減少幅は小さく抑えられているものの、平成 25 年をピークに人口の減少が続いています。

また、年少人口（0～14 歳）及び生産年齢人口（15 歳～64 歳）は減少傾向にあるものの、老年人口（65 歳以上）は増加しており、少子高齢化の流れは一層顕著になっていくものと考えられます。

高齢者が生涯にわたり実施できるスポーツの普及・推進により、健康寿命を延ばし、健康状態に応じた健康づくりが求められます。

また、少子化を含む対応策の一つとして、中学校運動部活動の地域展開が始まり、大きな変革期となっています。

(2) 新型コロナウイルス感染症による影響

新型コロナウイルス感染症は、社会全体に大きな影響を及ぼし、スポーツ分野においても、大会やイベントの中止などスポーツに親しむ機会が減少し、体力の低下や運動不足を引き起こすとともに、心理的な不安やストレス、閉塞感などを深刻化させました。

また、スポーツ関連企業や団体等においては、観客収入の減少やスポンサーシップの減少など経済的な打撃を受けました。

しかしながら、その一方で、制限された日々の中においては、身体を動かすことの重要性や、スポーツが持つ心の支えとしての役割がより一層強調され、スポーツが私たちの生活にとってどれほど重要であるかを再認識させる契機ともなりました。

(3) デジタル化とオンライン活動の拡大

テクノロジーの進化により、スポーツの楽しみ方や参加の仕方が変化しています。

オンラインでのフィットネスにより自宅でのトレーニングが可能となるほか、ライブストリーミングの普及により、世界中のどこからでも試合観戦ができるなど、デジタルコンテンツの普及は拡大しています。

また、プロスポーツチームではソーシャルメディアを通じてファンと直接的にコミュニケーションを取ることや、リアルタイムで交流できる場を提供するなど、デジタル技術の拡大はスポーツの楽しみ方や参加方法、ファンとの関わり方に大きな影響を与えています。

《 第 2 章 》 スポーツを取り巻く環境と課題

2 社会情勢等の変化

(4) 環境意識の高まりと持続可能なスポーツ活動

環境問題への意識が高まり、持続可能な社会作りが重視されている中、スポーツイベントや施設運営においても、環境に配慮した取組が求められています。

スポーツ施設でのエネルギー効率の改善や資源の循環利用、廃棄物削減などの対策により、環境への負荷を減らしながら、スポーツの魅力を広めていくことや、スポーツ活動を通じて環境問題への理解を深め、次世代に対して持続可能な社会を築くための重要な手段となることが期待されています。

(5) 多様性とインクルージョンの推進

性別、年齢、障害の有無、人種や文化の違いを尊重する社会が求められる中で、すべての人々が参加できるスポーツ環境の整備が重要となっています。特に障がい者スポーツの普及や、ジェンダー平等を意識したプログラムの展開、マイノリティへの配慮を取り入れることが、社会的にも必要となっています。

これらの概念の推進は、スポーツ活動のアクセス向上や社会的なつながりの形成、そしてコミュニティの多様性を尊重するために欠かせない要素です。

※令和 7 年 12 月時点の人口などのグラフを入れる予定※

《 第 2 章 》 スポーツを取り巻く環境と課題

3 本市における現状（前計画の総括）と課題

前計画（令和 3 年改定後）では、“活みなぎる「スポーツ都市」とまこまい～スポーツを愛し、市民が活気あふれるまちへ～を基本理念として、8 つの方針のもと 16 の施策の実現に取り組んできました。

(1) 8 つの方針とこれまでの取組状況

方針 1 ライフステージに応じ誰でも気軽にスポーツができる機会を提供します

施策① 誰でも気軽にスポーツを楽しむ環境をつくります

施策② 子どもがスポーツに親しむ機会をひろげます

施策③ 高齢者がスポーツを楽しむ機会をひろげます

【これまでの取組状況】

スポーツ実施率向上とスポーツ人口増加には、誰もが気軽に参加できる環境が必要であることから、健康ウォーキング事業やとまこまいスポーツフェスティバルなどの市民参加型イベント、学校体育館の市民開放などを実施し、身近なスポーツ環境を整備しました。

また、子どもにとって、スポーツは「健康な身体づくり」「体力向上」「豊かな心の育成」に効果があることから、子ども向けスポーツ教室などのイベントや、少年団チームなどを紹介する番組「Come!Come!スポーツキッズ」を制作し、団員募集などのスポーツ人口の増加や地域スポーツ振興に繋げる取組を実施しました。

高齢者には無料スポーツ施設利用券を提供し、健康増進を支援し、健康寿命延伸を目指して、スポーツと福祉分野の連携を強化しました。

方針 2 スポーツへの理解を深め地域でスポーツに参加できる機会を創出します

施策④ 身近な地域でスポーツの交流ができる機会をつくります

施策⑤ 地域文化として氷上スポーツへの参加を推進し地元を愛する心を育みます

施策⑥ 多様な媒体による情報発信を行いスポーツへの参加をサポートします

【これまでの取組状況】

身近な生活環境で気軽にスポーツを楽しめる機会を提供するため、とまこまいマラソン大会や八地区スポーツフェスティバルを実施し、地域内での交流と地域コミュニティ再生に取り組んだほか、総合型地域スポーツクラブの育成やスポーツ少年団の活動を促進し、協調性の向上や人間関係の構築等の機会の提供に努めました。

また、「スケートのまち」、「氷都とまこまい」として築いてきた独自のスケート文化を次世代の子ども達へとつないでいくため、氷上スポーツ育成事業や幼稚園でのスケート事業に対する助成を行い、今後の競技人口増加のため、子ども達のスケート競技への関心を高める機会を提供しました。

スポーツ施設の利用情報やイベント情報などについては、従来の広報誌やホームページに加え、Instagram などの SNS のほか、ラジオ等のコミュニティ放送も活用し、様々な手法を模索しながら取組を行いました。

《 第 2 章 》 スポーツを取り巻く環境と課題

3 本市における現状（前計画の総括）と課題

(1) 8つの方針とこれまでの取組状況

方針3 スポーツ大会や合宿の誘致を行いスポーツを観る機会をつくります

施策⑦ スポーツ大会の誘致を行いトップレベルのプレーを観る機会をつくります

施策⑧ スポーツ合宿の誘致を行いトップレベルの練習方法を学ぶ機会をつくります

施策⑨ トップスポーツ観戦の機会をつくりスポーツが持つ楽しさや感動を共有します

【これまでの取組状況】

苫小牧市 MICE 誘致推進協議会や地元競技団体と連携し、スポーツ大会や合宿誘致活動を展開しました。

特にスポーツ大会においては、ミラノ・コルティナオリンピック女子アイスホッケー最終予選などの国際大会や国民スポーツ大会冬季大会（国スポ）や日本学生氷上競技選手権大会（インカレ）、全国高校総体（インターハイ）などの全国規模の大会を開催し、地域経済の活性化はもとより、本市のスポーツ施設の魅力向上や、観光、文化、産業などの本市の魅力を市内外に情報発信する絶好の機会となりました。

また、トップスポーツ観戦の機会としては、女子プロゴルフ小学生見学ツアーや、プロ野球北海道日本ハムファイターズが実施した市民応援デーのほか、様々な大会において大会主催者と連携し学生無料招待の機会を設け、スポーツに関心を持ち、スポーツを楽しむ環境づくりを展開しました。

方針4 競技スポーツを支え世界で活躍する選手を地域で育み応援します

施策⑩ 競技スポーツの活動を支援し世界で活躍する選手を育てます

施策⑪ アスリートを育み応援することでまちの誇りと一体感を醸成します

施策⑫ トップアスリートとふれあう機会をつくりスポーツ振興につなげます

【これまでの取組状況】

国際大会や全国・全道大会などのハイレベルな大会に参加することは、今後の競技力の向上にとって大変貴重な機会であることから、より多くの市民が上位の大会を目指し競技力の向上につなげていくため、国際大会奨励金の贈呈や全国・全道大会遠征費の補助を行いました。

また、2020 東京オリンピック・パラリンピック出場選手団の合宿受入れや採火式、本市ゆかりのアスリートを全市民が応援する機運を高めるため、応援メッセージの発信等、市民のスポーツへの興味関心を高め、将来のスポーツ人口増加に向けた取組を実施しました。

トップアスリートとふれあう機会としては、スポーツマスターによるスポーツ教室の実施や、ヤクルトスワローズによる野球教室や北海道日本ハムファイターズ選手トークショーを開催するなど、交流事業に取り組みました。

《 第 2 章 》 スポーツを取り巻く環境と課題

3 本市における現状（前計画の総括）と課題

(1) 8つの方針とこれまでの取組状況

方針5 スポーツを支える人の拡大を推進します

施策⑬ スポーツボランティアの活躍を推進しスポーツを支える輪をひろげます

【これまでの取組状況】

スポーツ活動の支えを担うスポーツ指導者やスポーツボランティアの人材登録を促進し、登録指導者の情報を地域からの要望に応じ紹介する、人材バンク事業を行いました。

地域スポーツ振興の役割を担うスポーツ推進委員については、専門的知識や技能向上に向けた研修会等の開催や活動支援の取組を実施しました。

また、競技力向上やけが予防には体づくりや食事が重要である観点から、アスリートフードマイスター養成事業を実施し、考案メニューの公開を行い食の分野からスポーツを支える取組を実施しました。

方針6 民間事業者等と協力して誰もがスポーツに参加できる環境を整備します

施策⑭ 民間スポーツ事業者や各種教育機関と協力し誰もがスポーツに参加できる機会を提供します

【取組状況】

市のスポーツ施設に指定管理者制度を導入し、民間事業者の能力やノウハウを幅広く活用した自主事業の展開を行うなど、市民サービスの向上や市民がスポーツに参加できる機会の提供に努めました。

また、公私協力方式により開学した北洋大学（旧苫小牧駒澤大学）と連携し、大学のスポーツ資源を活用し、本市のスポーツ事業への協力や市民のスポーツ参加の推進に向けた取組を行いました。

方針7 それぞれの適正に応じたスポーツ活動を推進します

施策⑮ 障がいのある方がスポーツを楽しむ機会をつくれます

【取組状況】

誰もが参加できるパラスポーツ教室を開催し、障がいのある人にとっては、スポーツに親しみ、参加者との交流により、社会参加を促進する機会となり、障がいのない人にとっても、障がい者スポーツの実施や障がいのある方とスポーツを楽しむことで、障がいへの理解を深め、福祉の担い手を増やす機会として取組を進めてきました。

また、様々なパラスポーツ競技を体験できるパラスポーツ体験会を開催し、パラスポーツの周知と競技人口の拡大や更なる障がいへの理解促進に繋げたところです。

《 第 2 章 》 スポーツを取り巻く環境と課題

3 本市における現状（前計画の総括）と課題

(1) 8つの方針とこれまでの取組状況

方針8 誰もが安全で快適に利用できるスポーツ施設の整備を進めます

施策⑯ 誰もが安全で快適に利用できるスポーツ施設の整備を進めます

【これまでの取組状況】

本市のスポーツ施設は半数以上が建築から 30 年以上が経過し、改修等をはじめ器具の更新等も急務な状況にあることを踏まえ、令和 3 年 3 月に苫小牧市スポーツ施設整備計画を策定し、長期的な視点で、計画的な整備に取り組んできたところです。

令和 5 年度インターハイ開催に向けた緑ヶ丘公園庭球場のコート改修、矢代スポーツセンターの人工芝化や防球ネットの設置、少年野球場のラバーフェンス改修、令和 6 年 1 月の国民スポーツ大会開催に向けたハイランドスポーツセンター計測システムや nepia アイスアリーナ音響設備更新等を実施しました。

今後も既存施設が安全で快適に利用できるよう施設整備計画に基づき整備を進めてまいります。



≪ 第 2 章 ≫ スポーツを取り巻く環境と課題

3 本市における現状（前計画の総括）と課題

(2) 本市の課題

第 1 期計画（平成 28 年度から令和 7 年度まで）においては、以下の 7 つの目標数値を掲げ、各種施策に取り組んできました。

しかしながら、全ての項目において目標を達成することができず、前回の計画改訂時に課題とした事項について、十分な改善が見られない現状が明らかとなりました。

（単位：％）

成果指標と目標数値	R 3	R 7
市民の <u>70%</u> が、週 1 回以上運動を行うことを目指します	<u>58</u>	<u>59</u>
児童・生徒の <u>75%</u> が、運動やスポーツが好きになることを目指します	<u>63</u>	<u>60</u>
市民の <u>40%</u> が、市や地域等のスポーツ行事に参加することを目指します	<u>25</u>	<u>17</u>
本市が「スポーツ都市宣言」を行ったまちであることを、 <u>80%</u> の市民に知ってもらうことを目指します	<u>38</u>	<u>31</u>
市民の <u>50%</u> が、年 1 回以上スポーツ施設で観戦することを目指します	<u>30</u>	<u>34</u>
市民の <u>20%</u> が、スポーツボランティア活動を行うことを目指します	<u>7</u>	<u>5</u>
障がいのある人の <u>65%</u> が、週 1 回以上運動を行うことを目指します	<u>51</u>	<u>49</u>

図 1 スポーツ実施率

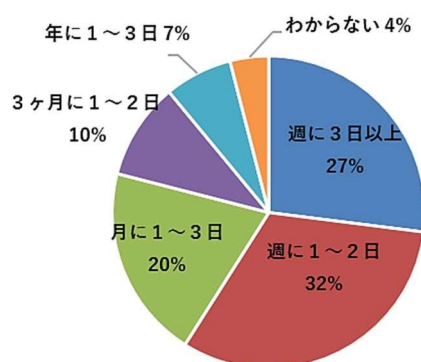


図 2 地域スポーツ活動への参加状況

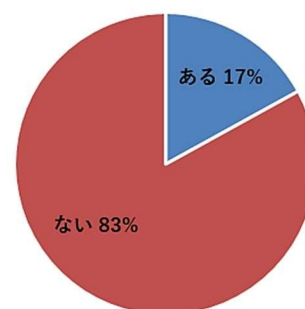


図 3 スポーツ観戦率

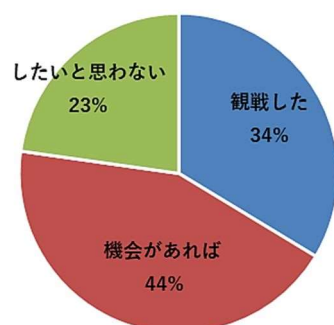
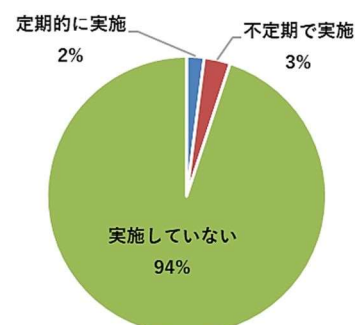


図 4 スポーツボランティア実施率



《 第 2 章 》 スポーツを取り巻く環境と課題

3 本市における現状（前計画の総括）と課題

①『市民の運動・スポーツ活動実態調査』から見えてきた課題

運動を行わなかった、あるいはやめた理由として最も多かったのは「仕事・学業等が忙しくて時間がない」であり、全体の 43% を占める結果となりました。これは、働き世代や学生など、日常生活における時間的余裕のなさが運動習慣の妨げとなっている現状を示しています。

また、新たにスポーツを始めるにあたり、市民が重視する点としては、前回調査と同様に「お金がかからないこと」や「身近な場所ですること」といった、気軽に取り組める環境が求められており、誰もが無理なくスポーツを始められる地域づくりが今後の課題です。

本市の特徴である氷上スポーツの現状については、いずれの競技も実施率は前回調査と同様に 1 割以下にとどまっており、きっかけの不足や体調・ケガといった理由が、実施率の低さの要因となっています。一方で、「もっと力を入れるべき」や「独自の文化として守っていくべき」といった意見が大半を占めていることから、今後も競技人口の拡大に向けた取組を進めていく必要があります。

令和 8 年に 60 周年を迎えるスポーツ都市宣言の認知度については、全体で 32% となっており世代別に見ると 30 代以下の認知度は 20% 以下となっていることから、若年層に向けた取組を強化していく必要があります。

図 5 スポーツをやめた理由

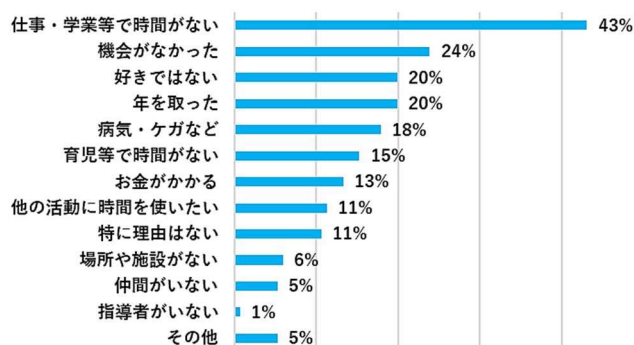


図 6 新たにスポーツを始める際に重要なこと

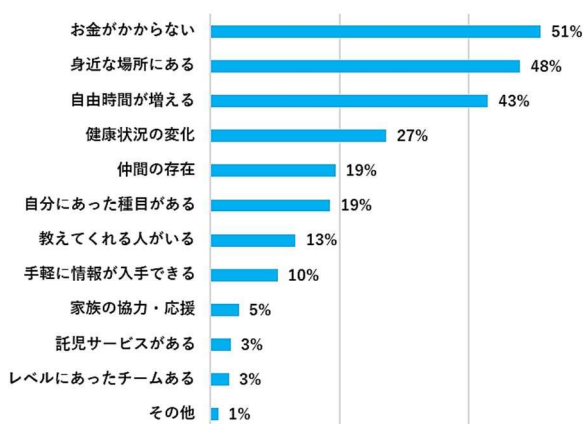


図 7 氷都としてどういべきか

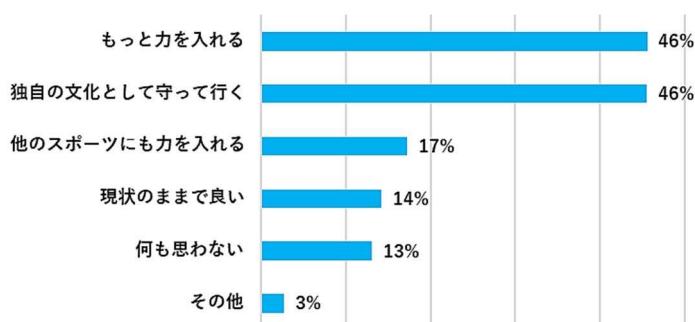
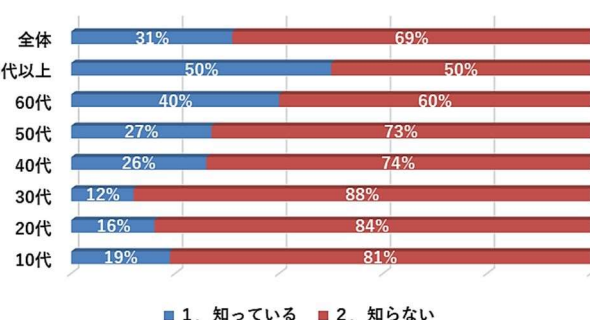


図 8 スポーツ都市宣言の認知度（年代別）



■ 1. 知っている ■ 2. 知らない

≪ 第 2 章 ≫ スポーツを取り巻く環境と課題

3 本市における現状（前計画の総括）と課題

②『障がいのある方の運動・スポーツ活動実態調査』から見てきた課題

障がいのある方のスポーツ実施率は 49%となっており、国全体の実施率である 36%を上回る結果となりました。しかし、前回の調査結果と比較すると実施率は減少しており、引き続き取組が必要であることがうかがえます。

障がいのある方がスポーツに取り組むうえでの課題としては、「一緒に活動するメンバーが少ない」との回答が多く、安心して参加できる交流の場や仲間づくりの機会が、十分に確保されていない現状が浮き彫りとなりました。こうした状況を改善するためには、障がいのある方が気軽に参加できる教室やイベント、地域のつながりづくりを一層推進していくことが求められます。

また、公共施設のバリアフリー化については、「整備されていない」との回答が前回の 66%から 56%に減少しており、一定の改善が進んでいることが伺えます。しかしながら、トイレや駐車場から会場までの移動に不便を感じているとの意見が依然として多く寄せられており、すべての人が安心してスポーツに参加できる環境づくりに向けて、さらなる施設整備や利用者目線での環境改善が求められます。

図 9 スポーツ実施率

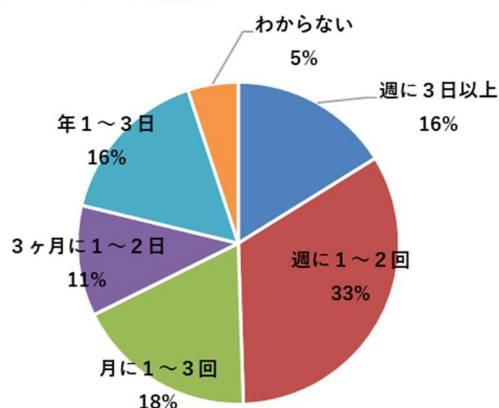


図10 スポーツを行う上での課題

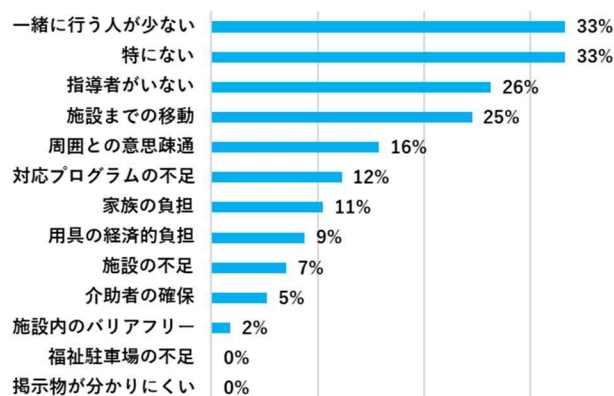


図11 バリアフリー化が進んでいる施設はあるか

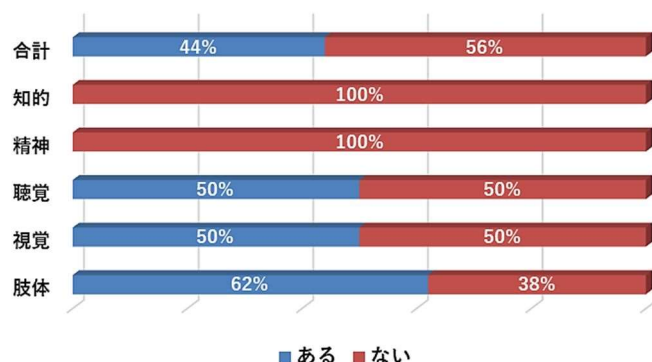
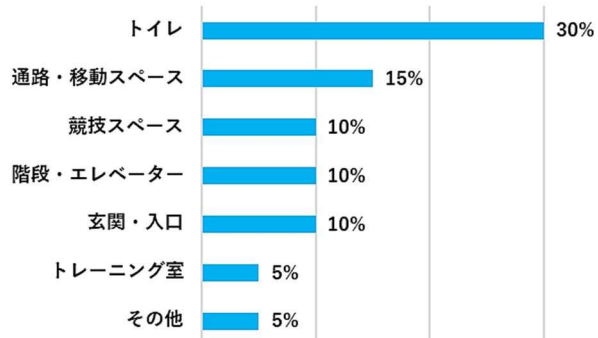


図12 施設で利便性がよくないと感じる所



≪ 第 2 章 ≫ スポーツを取り巻く環境と課題

3 本市における現状（前計画の総括）と課題

③『苫小牧市での合宿に関する調査』から見えてきた課題

本市におけるスポーツ合宿の状況をみると、種目別では「アイスホッケー」と「バスケットボール」が多く、参加者のカテゴリとしては「高校生」が中心となっています。これらは、本市に全国的にも知られる強豪校が存在していることが大きな要因であると考えられます。

また、合宿地として苫小牧が選ばれる理由としては、「合宿助成金制度」が一定の効果を発揮しており、こうした支援施策が合宿誘致において評価されていることが、今回の調査から明らかになりました。

一方で、合宿の実施時期には偏りが見られ、春から夏にかけての開催が多く、冬季には合宿の受入が少ない状況です。今後は、冬季にも積極的な受入を促進し、年間を通じて安定的かつバランスの取れた合宿の受入体制を整えることが重要です。これにより、地域経済の活性化をさらに図るとともに、スポーツを通じたまちの魅力発信にもつなげていく必要があります。

図13 種目

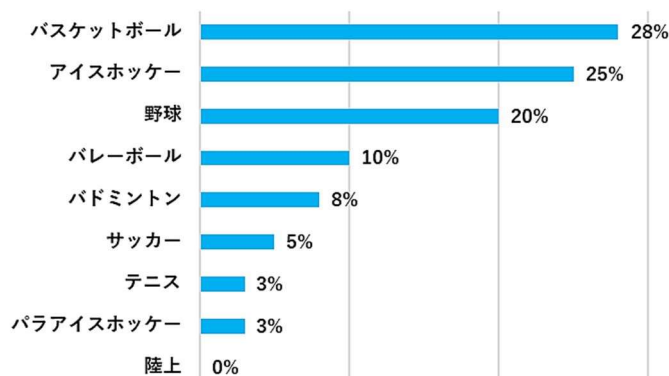


図14 カテゴリ

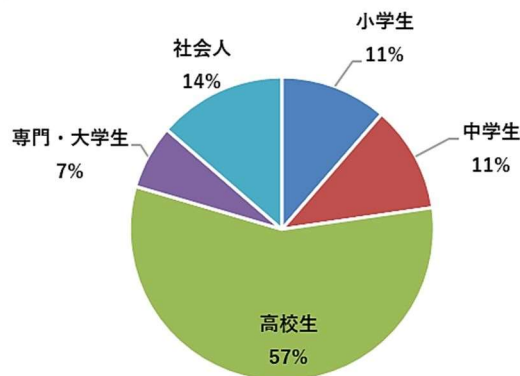


図15 苫小牧を選んだ理由

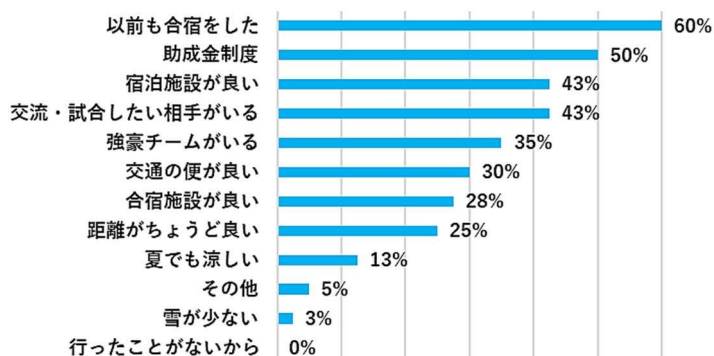
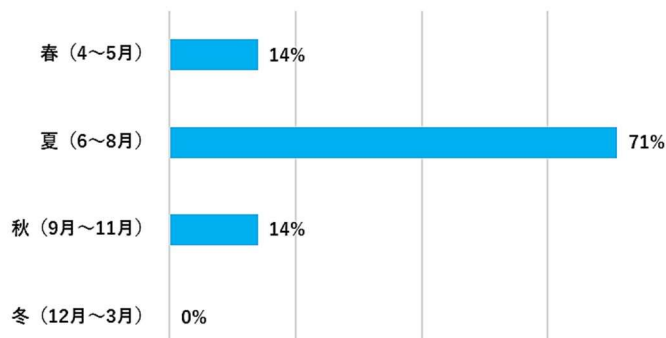


図16 スポーツ合宿が多い時期



≪ 第 2 章 ≫ スポーツを取り巻く環境と課題

3 本市における現状（前計画の総括）と課題

④『スポーツ指導者の実態調査』から見えてきた課題

スポーツ指導者の現状については、「40 代」以上の方が中心となっており、多くが「会社員」として働きながら、限られた時間の中で指導に携わっていることが明らかになりました。地域のスポーツを支える重要な存在である指導者の多くが、仕事や家庭と両立しながら活動している実態がうかがえます。

また、指導現場における課題としては、「選手不足」や「指導者のなり手不足」、「活動場所や施設の不足」といった声が多く寄せられており、競技人口の拡大や練習環境の充実が求められている状況です。

さらに、指導者自身が抱える課題としては、「指導に十分な時間が確保できない」「金銭的負担が大きい」といった点が挙げられており、時間的・経済的負担を軽減するための支援策や環境整備を検討し、指導者が安心して長く活動を続けられる体制づくりを進めていくことが重要です。

図17 年代

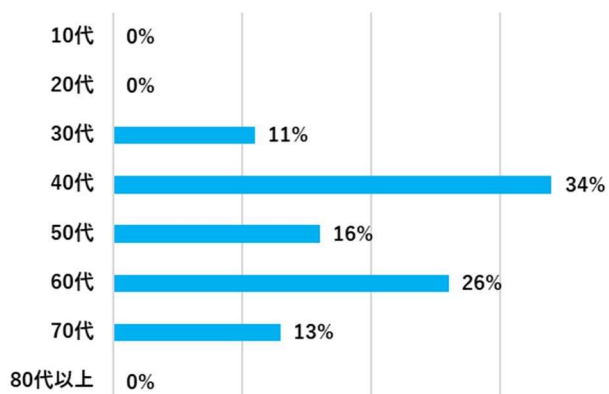


図18 仕事

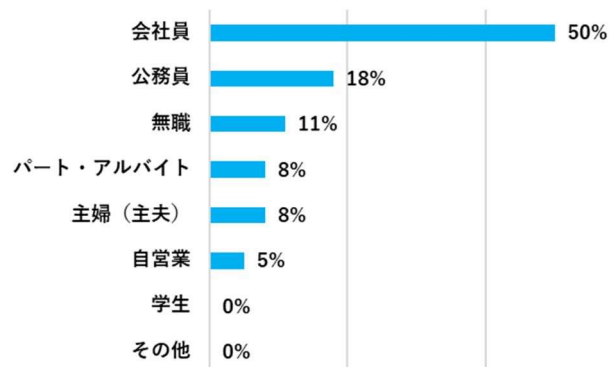


図19 指導を行う際に問題になっていること

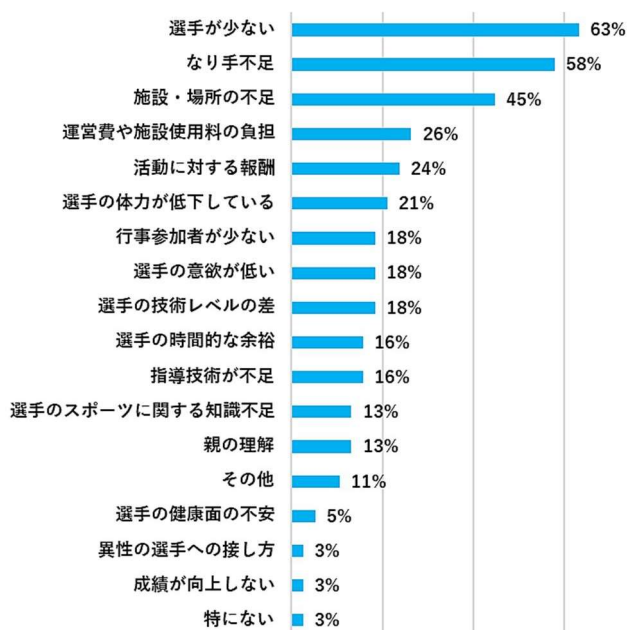
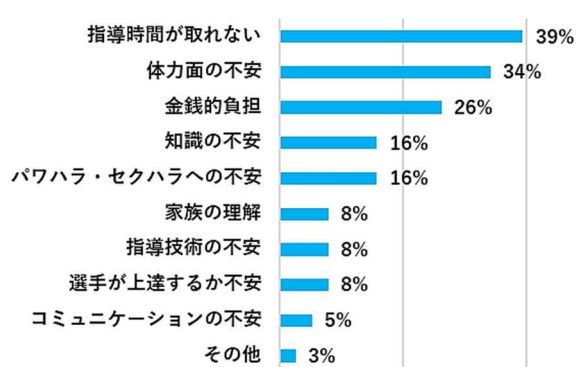


図20 指導していく上で、抱えている課題



≪ 第 2 章 ≫ スポーツを取り巻く環境と課題

3 本市における現状（前計画の総括）と課題

⑤『スポーツ施策に関する調査』から見えてきた課題

本市のスポーツ施設を管理している指定管理者に対して実施したアンケート結果によると、本市のスポーツ施策において特に評価が高かった点として「施設利用料が安価であること」が挙げられ、経済的負担を抑えながらスポーツに親しめる環境であることが評価されています。

一方で、『今後注力すべきこと』や『スポーツツーリズム実現のために必要なこと』といった問いに対しては、「施設の充実」がもっとも多く挙げられており、体育館をはじめとする既存施設の老朽化や、練習・活動場所の不足が大きな課題として浮き彫りになっています。特に、全国大会や合宿誘致、スポーツツーリズムの推進を目指す上でも、こうした施設面の課題解決は避けて通れない重要な取組事項といえます。

さらに、市のスポーツ関連情報の発信についても改善が求められており、誰もが必要な情報に簡単にアクセスできるよう、より効果的でわかりやすい情報提供の方法や工夫が今後の課題として挙げられています。これらの課題を一つひとつ着実に改善し、市民が安心してスポーツを楽しめる環境づくりと、まちの魅力向上を進めていくことが求められています。

図21 市のスポーツ分野において優れている点

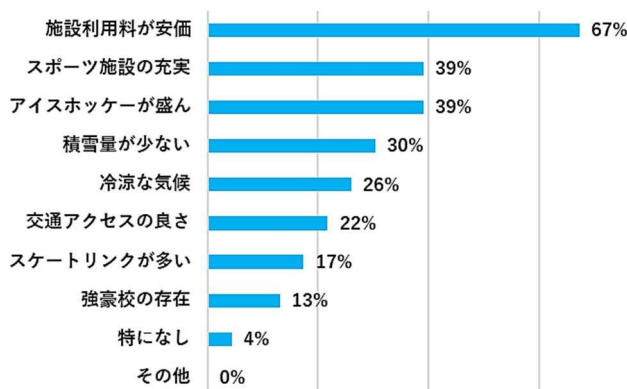


図22 今後注力すべきこと

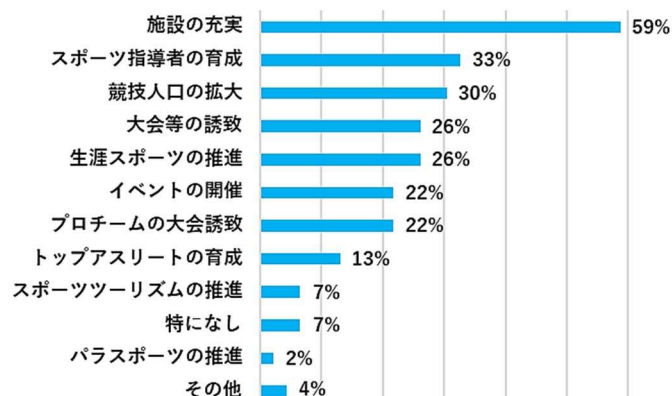


図23 スポーツツーリズムの実現度

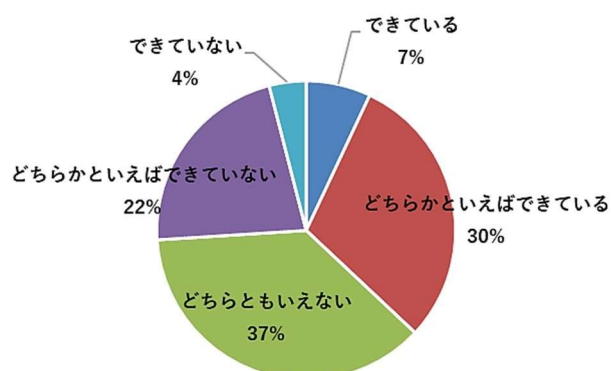
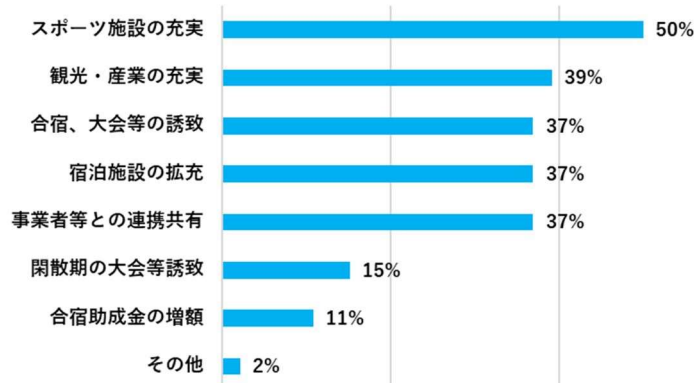


図24 スポーツツーリズム実現（充実）のために必要なこと

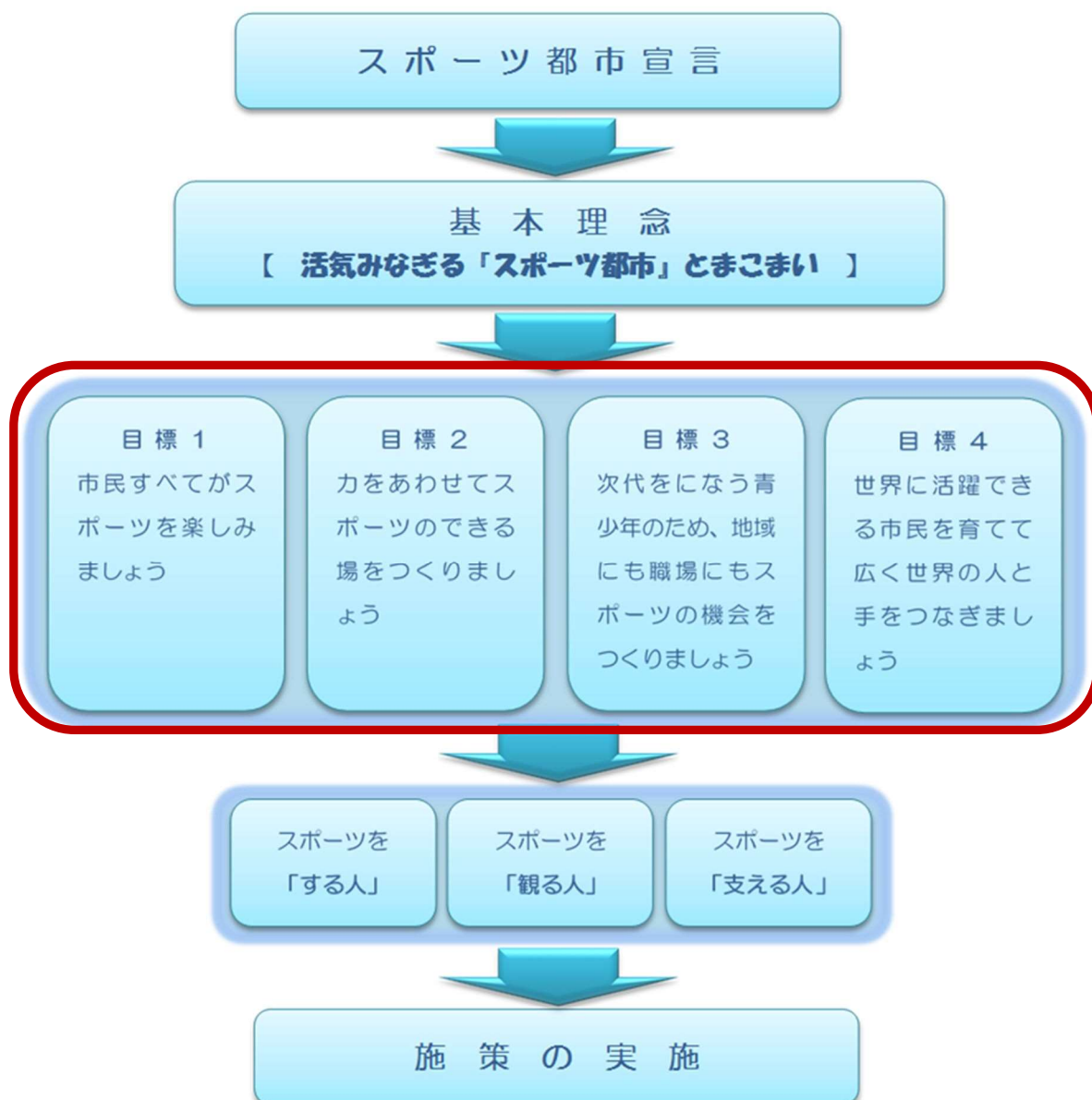


《 第 3 章 》 計画の基本的な考え方

1 基本的な考え方

第1期計画（平成28年度から令和7年度まで）に引き続き、「スポーツ都市宣言」に示す4つの柱を目標として、各施策を推進していきます。

※第1期計画の基本理念及び目標



《 第 3 章 》 計画の基本的な考え方

2 基本理念

「まちが輝く、人が輝く、スポーツの力で」

～ 輝きつなぐ、スポーツ都市とまこまい ～

➡ 第1期の「スポーツ都市」を継承し、スポーツによる未来への継承や発展をイメージ。

【由 来】

このテーマは、スポーツが持つ力を通じて、個人の成長と地域社会の活性化を同時に促進し、最終的に「まち」と「人」の双方が輝く未来を目指すというビジョンを描いています。

スポーツの持つ可能性は、個人の心身の成長だけでなく、地域全体を元気にし、コミュニティの絆を深める力を持っています。

1 「まちが輝く」

スポーツは、街の文化やアイデンティティを形成し、観光や地域経済にも良い影響を与えます。

スポーツイベントや活動が地域に活力を与え、地域の人々が一つになり、共に楽しむことでまちが明るく活気に満ちた場所となるという思いを込めています。

2 「人が輝く」

スポーツは、体力向上や健康促進だけでなく、チームワークやチャレンジ精神などを育みます。

選手として、または応援する側として、スポーツに参加することで心身が成長し、市民一人ひとりが持つポテンシャルを最大限に発揮できるようになるという思いを込めています。

3 「スポーツの力で」

スポーツは、競技の枠を超えて、教育、健康、地域経済のつながり、社会問題解決など幅広い影響力を持っています。

また、スポーツには感動や歓声、共感など、人々を動かす力を持っています。地域でのスポーツ活動を通じて、次世代のリーダーや有望なアスリートが育ち、そして、多くの市民に活力を与える、そういった思いを込めています。

【総合的なビジョン】

「まちが輝く、人が輝く、スポーツの力で」というテーマは、スポーツを通じて地域社会の発展と個々の人間の成長を促すことで、健全で活気に満ちた社会を作り上げることを目指しています。

スポーツが地域のシンボルとなり、そこに市民の心と体を豊かにし、共に輝く未来を切り開いていくというメッセージを込めています。

<< 第 3 章 >> 計画の基本的な考え方

3 計画の方針と施策

本計画では、目標の達成に向けて、次のとおり「5つの方針」と「15の具体的な施策」を定め、計画的かつ効果的に取組を進めてまいります。

4つの目標	5つの方針	15の施策
1 市民すべてがスポーツを楽しみましょう。	(1)誰もがスポーツができる機会の創出	①生涯スポーツ社会を実現する。
		②地域で健康増進や生きがいのあるスポーツ活動を推進する。
		③パラスポーツ・軽スポーツを推進する。
2 力をあわせてスポーツのできる場をつくりましょう。	(2)スポーツによるまちづくり	④大会や合宿を誘致し、地域経済の活性化を図る。
		⑤スポーツによるまちの魅力の向上を目指す。
		⑥交流人口の増加を目指す。
3 次代をになう青少年のため、地域にも職場にもスポーツの機会をつくりましょう。	(3)アスリートの育成やスポーツをする子どもへの支援	⑦トップレベルに触れる機会を創出する。
		⑧世界で活躍する選手を育成し、ゆかりのある選手を市全体で応援する。
		⑨市内でスポーツをする選手への支援を行う。
		⑩スポーツによる国際交流を増やす。
		⑪青少年のスポーツ人口を増やす。
4 世界に活躍できる市民を育てて広く世界の人と手をつなぎましょう。	(4)氷上スポーツの推進	⑫スポーツを支える人（ボランティアや指導者）を拡大する。
		⑬古くから市民に親しまれ特色ある文化を維持し、競技人口の拡大に努める。
	(5)スポーツができる場の提供	⑭地域資源を活用することによる地元スポーツへの理解や愛着の醸成する。
		⑮誰もが安全にいつでも利用できる施設を提供する。

≪ 第 3 章 ≫ 計画の基本的な考え方

4 成果指標と目標数値

本計画では、施策の効果を的確に把握し、進捗状況や課題を明らかにするとともに、全国初の『スポーツ都市宣言』を行ったまちとして、次のとおり「成果指標」と「目標数値」を設定します。

第 2 期計画内（R8～R12）での「成果指標」と「目標数値」		現在 (R7)	中間 (R10)	最終 目標
全国初のスポーツ都市宣言を行ったまちとして	市民の 65% が週 1 回以上運動を行うことを目指します。 【関連施策】 ①、②、③、④、⑤、⑦、⑧、⑨、⑪、⑬、⑭、⑮	59	62	<u>70</u>
	児童・生徒の 65% が、運動やスポーツが好きになることを目指します。 【関連施策】 ①、②、③、⑤、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑬、⑭	60	63	<u>75</u>
	市民の 25% が、市や地域等のスポーツ行事に参加することを目指します。 【関連施策】 ①、②、③、⑤、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭	17	22	<u>40</u>
	市民の 40% が、年 1 回以上スポーツ施設で観戦することを目指します。 【関連施策】 ④、⑤、⑥、⑦、⑨、⑩	34	38	<u>50</u>
	市民の 10% が、スポーツボランティア活動を行うことを目指します。 【関連施策】 ①、②、③、④、⑤、⑫	5	7	<u>20</u>
	障がいのある人の 55% が、週 1 回以上運動を行うことを目指します。 【関連施策】 ①、②、③、⑤、⑫、⑮	49	52	<u>65</u>

《 第 4 章 》 目標達成に向けた主な事業展開

1 各方針に対する具体的な施策

方針1 誰もがスポーツができる機会の創出

施策 ①生涯スポーツ社会を実現する

②地域で健康増進や生きがいのあるスポーツ活動を推進する

③パラスポーツ・軽スポーツを推進する

【取組内容】

スポーツ実施率の向上とスポーツ人口の増加を図るためには、年齢や体力、経験の有無に関わらず、誰もが気軽に参加できる環境の整備が重要です。市民一人ひとりが無理なく楽しみながら運動に取り組めるよう、「健康ウォーキング事業」や「とまこまいスポーツフェスティバル」など、楽しさや達成感を感じられる市民参加型イベントを実施し、日常の中にスポーツを取り入れるきっかけを提供することで、市民の健康増進や交流促進を図ります。

また、すべての人が等しくスポーツに親しめる社会の実現に向けて、障がいのある方も参加しやすい環境づくりにも力を入れていきます。「パラスポーツ教室」や「パラスポーツ体験会」の開催を通じて、スポーツの楽しさや達成感を感じられる機会を提供し、継続的な活動への参加を促進していきます。

さらに、デジタルトランスフォーメーション（DX）を活用し、健康上の理由や障がい等により外出が困難な人たちも平等にスポーツに参画できるよう取り組んでいきます。

こうした誰もがスポーツに関われる環境づくりを進めることにより、スポーツが生活の一部として定着し、すべての市民が健康で活力ある日常を送れるような地域づくりを目指していきます。

【実施する主な事業】

- 1 各種市民スポーツ祭
- 2 健康ウォーキング事業
- 3 とまこまいスポーツフェスティバル
- 4 スポーツ習慣化促進事業
- 5 とまこまいマラソン
- 6 スポーツ推進委員会活動
- 7 パラスポーツ教室・パラスポーツ体験会
- 8 出前講座
- 9 老人オリンピック
- 10 70歳以上の方へのスポーツ施設無料利用券発行

《 第 4 章 》 目標達成に向けた主な事業展開

1 各方針に対する具体的な施策

方針 2 スポーツによるまちづくり

- 施策 ④大会や合宿を誘致し、地域経済の活性化を図る**
⑤スポーツによるまちの魅力の向上を目指す
⑥交流人口の増加を目指す

【取組内容】

本市の特色である豊かな自然環境や交通アクセスの良さなどを最大限に活用するとともに、「全国・全道スポーツ大会開催運営費補助金」や「スポーツ合宿等補助金」などの既存制度を積極的に周知し、競技団体や学校及びスポーツ関係者に対して、誘致に向けた働きかけを強化していきます。

これにより、各種スポーツ大会や合宿の開催を促進するとともに、プロスポーツの拠点化やプロスポーツ団体と連携した施策を展開し、スポーツを通じた地域経済の活性化につなげる仕組みを構築します。

また、プロスポーツ団体の誘致にあたっては、高水準の競技環境を提供するための施設整備が不可欠ですが、こうした施設を市民が利用できることは、市民サービスの向上にも大きく寄与します。

これらの取組を通じて、市民が高い競技レベルに触れる機会を創出し、スポーツへの関心や機運の醸成を図ってまいります。

さらに、「氷都体感プログラム」などの取組を通じて、アイスホッケータウンとしての本市の特性や魅力を広く発信し、市外からの訪問者や交流人口の増加につなげていきます。

これらの取組を着実に進めるとともに、昭和 41 年に全国で初めて『スポーツ都市宣言』を行ったまちとして、今後もその歴史と精神を大切にしながら、スポーツの価値を地域に浸透させ、まちの魅力向上につなげてまいります。



【実施する主な事業】

- 1 全国・全道スポーツ大会開催運営費補助金
- 2 スポーツ合宿等補助金
- 3 合宿誘致セールス等（MICE 誘致推進協議会との連携）
- 4 氷都体感プログラム
- 5 はちとまネットワーク（八戸市小学生とのアイスホッケー交流試合）

《 第 4 章 》 目標達成に向けた主な事業展開

1 各方針に対する具体的な施策

方針 3

アスリートの育成やスポーツをする子どもへの支援

施策 ⑦ トップレベルに触れる機会を創出する

⑧ 世界で活躍する選手を育成し、ゆかりのある選手を市全体で応援する

⑨ 市内でスポーツをする選手への支援を行う

⑩ スポーツによる国際交流を増やす

⑪ 青少年のスポーツ人口を増やす

⑫ スポーツを支える人（ボランティアや指導者）を拡大する

【取組内容】

スポーツを通じたまちの魅力向上と競技力の向上を目指し、アジアリーグをはじめとするプロスポーツの試合を積極的に開催し、市民がトップレベルの選手に直接触れ、競技の魅力や感動を実感できる機会を創出するとともに、地域のスポーツ文化の活性化を図ります。

また、「スポーツ大会遠征費補助金」などの施策を実施し、市内でスポーツに励む選手を支援するとともに、世界で活躍できる選手を、市全体で応援する体制づくりを進めます。

さらに、スポーツを通じた国際交流の拡大にも努め、多様な交流機会を創出して地域の活性化と多文化理解の促進を図ります。

こうした取組に加え、「部活動の地域展開」については、地域のスポーツ団体や総合型地域スポーツクラブ、競技団体等との連携を図りながら、青少年が継続的にスポーツに親しむ機会を確保し、成長に応じた指導体制、地域全体で支える仕組みの構築を目指します。

【実施する主な事業】

- 1 プロスポーツ等の試合開催
- 2 NTC（ナショナルトレーニングセンター）事業
- 3 スポーツ大会遠征費補助金（遠征費補助金、国際大会出場奨励金）
- 4 スポーツマスター事業
- 5 合宿誘致セールス等（MICE 誘致推進協議会との連携）
- 6 アスリートに対する応援事業（セレモニーの実施、横断幕の掲示など）
- 7 青少年スポーツ振興事業
- 8 児童センターの運動事業
- 9 スポーツボランティア制度

《 第 4 章 》 目標達成に向けた主な事業展開

1 各方針に対する具体的な施策

方針4 氷上スポーツの推進

- 施策 ⑬古くから市民に親しまれ特色ある文化を維持し、競技人口の拡大に努める**
⑭地域資源を活用することによる地元スポーツへの理解や愛着の醸成する

【取組内容】

『氷都とまこまい』としての伝統を次世代へつなぐため、幼児や小学校低学年を対象としたスケート・アイスホッケー教室や大会の開催、幼稚園のスケート事業への助成などを通じて、スケート文化の普及・振興に取り組めます。

また、『氷上の甲子園』とも呼ばれる「全国高等学校選抜アイスホッケー大会」を開催することで、アイスホッケータウンとしての知名度向上を図るとともに、全国的な競技の振興にも努めます。

さらに、アイスホッケーに加えて、北海道で初めてカーリングが行われた地としての歴史を活かし、カーリングに親しむ機会の創出や関連イベントの開催などにも力を入れ、市民がより身近に多様な氷上スポーツを楽しめる環境を整備し、氷上スポーツ全体の競技人口の拡大や裾野の広がりを図ってまいります。

これらの施策を通じて、『氷都とまこまい』のブランド価値を高めるとともに、未来を担う子どもたちや市民が誇りを持って氷上スポーツに取り組めるまちづくりを推進していきます。



【実施する主な事業】

- 1 ジュニアアイスホッケーチャレンジカップの開催
- 2 氷上スポーツ育成事業（氷上スポーツ体験教室、町内会スケートリンク助成など）
- 3 全国高等学校選抜アイスホッケー大会の開催（氷上の甲子園）
- 4 プロスポーツチームとの協働事業
- 5 カーリングの活用

《 第 4 章 》 目標達成に向けた主な事業展開

1 各方針に対する具体的な施策

方針5 スポーツができる場の提供

施策 ⑮誰もが安全にいつでも利用できる施設を提供する

【取組内容】

本市のスポーツ施設は、半数以上が建築から 30 年以上を経過しており、施設の老朽化が深刻な課題となっています。安全性や快適性を確保するためにも、施設の改修・補修や競技用器具の更新など、早急な対応が求められています。

こうした状況を踏まえ、令和 3 年 3 月に「苫小牧市スポーツ施設整備計画」を策定し、財政状況や利用実態、将来的な需要の見通しを総合的に勘案しながら、長期的な視点に立った計画的かつ持続可能な整備の推進を図っているところです。

しかしながら、全国規模のスポーツ大会の誘致や、スポーツを通じた観光振興（スポーツツーリズム）の実現においては、受け入れ環境としての施設の整備は不可欠です。観客や選手、関係者にとって利便性が高く、魅力的な施設を備えることは、都市のイメージ向上や地域の活性化にも大きく寄与することから、スポーツ施設の整備を戦略的かつ計画的に進めてまいります。

また、施設のバリアフリー化をはじめとして、高齢者や障がいのある方、子どもから大人まで、誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくりにも取り組んでいきます。健康づくりや地域交流の場として、多様な世代が安心して利用できる施設づくりを進め、市民の豊かで活力ある生活の基盤を支えてまいります。

【実施する主な事業】

- 1 市民スポーツ開放事業（学校開放）
- 2 指定管理者による自主事業の実施
- 3 スポーツ施設の計画的な改修・再整備
- 4 スポーツ施設の一体管理
- 5 公園や民間ジム等との連携

1	第1期計画の施策評価	P27～31
2	苫小牧市民の運動・スポーツ活動実態調査概要	P32
3	障がいのある方の運動・スポーツ活動実態調査概要	P32
4	苫小牧市での合宿に関する調査概要	P33
5	スポーツ指導者の実態調査概要	P33
6	スポーツ施策に関する調査概要	P33
7	各調査データ（グラフ）	P34～52
8	令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査（抜粋）	P53～54
9	苫小牧市スポーツ推進審議会条例	P55
10	苫小牧市スポーツ推進審議会委員名簿	P56
11	苫小牧市スポーツ推進審議会等審議経過	P57

1 第1期計画の施策評価

【施策評価】 ※“A(順調に実施)” “B(概ね順調に実施)” “C(やや遅れて実施)” “D(未実施)”

施策名	内 容	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
市民スポーツ祭の開催	卓球、ソフトテニス、スポンジテニス等の各種市民スポーツ祭の開催	B	B	B	B	A
ウォーキング事業の開催	ウォーキングスタンプラリー・ウォーキングフェスティバルの開催	B	B	B	A	A
アールビーズとの協働事業	包括連携協定を締結し、ランニングやウォーキング等を通じた事業（R3～）	—	A	A	B	B
スポーツフェスティバルの開催	全市民が体験、楽しむことができるスポーツイベントの実施（R3～）	—	D	A	A	A
スポーツ習慣化促進事業	働き世代等を対象に、レッドイーグルス北海道による運動プログラムを実施（R6～）	—	—	—	—	A
スポーツ学校開放事業	小・中学校体育館等を社会教育のためにスポーツ活動や社会教育に活用	C	A	A	A	A
児童の健全育成	児童センターにおいて、遊びを通して運動に親しむ習慣の形成や体力の増進を図る。	A	A	A	A	A
スポーツ施設利用・スポーツイベント参加者へのポイントの付与	市のスポーツ施設利用者やスポーツイベント参加者に対してとまチョップポイントを付与し、スポーツへの参加を促進する。	A	A	A	A	A
スポーツに関する情報発信	子どものための行事案内を公共施設等に配布し、生涯学習の機会充実を図る。	A	A	A	A	A
青少年スポーツ振興事業	少年団等の活動動画をインターネット等で配信し、競技人口の底上げ、地域スポーツの振興を推進する。（R5～）	—	—	—	A	A
苫小牧市老人クラブ連合会への補助	苫小牧市老人クラブ連合会主催の「老人オリンピック」に係る費用の一部を助成する。	D	D	D	D	D
70歳以上の方へのスポーツ施設無料利用券発行	70歳以上の方にスポーツ施設無料利用券を発行し、健康づくりや体力づくり、生きがいづくりを図る。	A	A	A	A	A

1 第1期計画の施策評価

【施策評価】 ※“A(順調に実施)” “B(概ね順調に実施)” “C(やや遅れて実施)” “D(未実施)”

施策名	内容	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
保健センターを利用した運動教室・講座	健康づくりに関する教室・講座を開催し、市民の健康増進を図る。	B	B	B	B	A
健康に関するイベント実施	健康づくりの契機となる事業を開催し、市民に生活習慣改善の意識づけを図る。	A	B	A	A	A
とまこまいマラソン大会の開催	多くの方が参加できるマラソン大会を開催	D	B	A	A	A
八地区スポーツフェスティバルの開催	市内を八地区に分け、地域で開催する各種スポーツ行事の運営費を補助	B	B	B	B	A
ジュニアスポーツクラブ支援事業	セガサミーホールディングス（株）と協力し、ジュニアスポーツ教室を開催（～R3）	D	D	—	—	—
小学生低学年アイスホッケーチャレンジカップ大会	小学校低学年のアイスホッケー大会を開催	A	B	A	A	A
氷上スポーツ育成事業	幼児を対象とした氷上スポーツ体験教室の開催や氷上スポーツ行事の経費助成	B	B	B	A	A
町内会スケートリンク経費助成	町内会で設置する公園スケートリンクの経費を補助	A	B	A	B	B
スポーツイベントの情報発信	各スポーツ施設でのイベント情報を、広報とまこまいやSNS等で発信	B	B	A	A	A
スポーツ団体の情報発信	年に1回サークルガイドを作成し、公共施設や市ホームページ等で情報提供	A	B	A	A	A
全国高等学校選抜アイスホッケー大会	インターハイと並ぶ全国大会「氷上の甲子園」を開催	D	B	B	A	A

1 第1期計画の施策評価

【施策評価】※“A(順調に実施)” “B(概ね順調に実施)” “C(やや遅れて実施)” “D(未実施)”

施策名	内容	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
スポーツ大会感染拡大防止 対策支援事業助成金	本市で開催される大会の感染対策に係る経 費の一部を助成（～R3）	C	B	－	－	－
全国・全道大会開催誘致 活動	補助金制度により各種スポーツの全国・全 道大会の開催を誘致	A	B	B	B	A
第 95 回日本学生氷上競技 選手権の開催	大学生として最高峰の大会「インカレ」の スケート競技を開催（R4）	－	－	A	－	－
令和 5 年度全国高等学校 総合体育大会の開催	高校生スポーツ最大の祭典である「インタ ーハイ」のソフトテニス競技及びテニス競 技大会を開催（R4 準備～R5）	－	－	A	A	－
第 78 回国民スポーツ大会 （スケート・アイスホッケー）の開催	国民の健康増進と体力の向上、地方スポー ツの推進と文化の発展の寄与等を目的とす る「国スポ」を開催			A	A	－
スポーツ合宿等助成	市外のチーム等が本市の施設を利用して実 施する合宿の経費を補助	A	A	A	A	A
スポーツ合宿の誘致活動	MICE 誘致推進協議会により市外の団体等 へ合宿誘致活動を行う	D	D	D	B	A
アイスホッケー競技 N T C 事業の推進	ナショナルトレーニングセンター強化拠点 指定施設である nepia アイスアリーナのト レーニング環境整備	A	A	A	A	A
プロスポーツの試合開催	世界大会やプロスポーツ等、トップレベル のスポーツ観戦の機会をつくる	A	B	B	B	A
国際少年アイスホッケー 中学生交流会	カナダと本市の中学生が一年毎に訪問し、 アイスホッケーを通して競技力向上と交流 を深める。（～R5 終了）	D	D	D	D	－
大会遠征費補助金	全道・全国大会に出場する学生の交通費助 成や国際大会出場者への奨励金支給	A	A	A	A	A

1 第1期計画の施策評価

【施策評価】 ※“A(順調に実施)” “B(概ね順調に実施)” “C(やや遅れて実施)” “D(未実施)”

施策名	内容	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
女性アスリートの健康に関する性教育講座	女性アスリートのパフォーマンス向上を目的とした性教育講座を実施（R6～）	—	—	—	—	A
2020 東京オリンピック・パラリンピック開催事業	2020 東京オリンピック・パラリンピック出場選手団の合宿受入れ、採火式等を実施（R3）	—	A	—	—	—
北京オリンピックアイスホッケー女子日本代表の応援事業	2022 北京冬季オリンピックに出場するアイスホッケー女子日本代表のパブリックビューイングの実施（R3）	—	D	—	—	—
アスリートに対する応援事業	本市ゆかりのアスリートに対する応援事業の実施	A	A	A	A	A
スポーツマスター事業	スポーツ分野で輝かしい功績を残したアスリートに称号を与え、教室を実施	A	A	A	B	A
レッドイーグルス北海道との協働事業	包括連携協定を締結し、学校訪問や、アイスホッケー教室等の協働事業を実施	D	A	A	A	A
Safilva 北海道との協働事業	包括連携協定を締結し、バレーボール教室等の協働事業を実施（R3～R4）	—	B	B	—	—
青森県八戸市との連携	共通のアイスホッケータウンとして、小学生のアイスホッケー交流試合等の協働事業を実施	D	D	C	A	A
北海道応援大使プロジェクト	北海道日本ハムファイターズの協力を得て、市民応援デーや選手交流会等を実施（R4～R6）	—	—	A	A	A
スポーツ推進委員会活動	スポーツ推進委員が地域スポーツの普及・推進を図るための活動援助	C	C	B	B	A
スポーツボランティアの募集	スポーツイベントやスポーツ大会等を支えるスポーツボランティアをスポーツ協会で募り、各種イベントに協力	B	B	B	B	B

1 第1期計画の施策評価

【施策評価】 ※“A(順調に実施)” “B(概ね順調に実施)” “C(やや遅れて実施)” “D(未実施)”

施策名	内容	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
アスリートフードマイスター養成支援	身体づくりをサポートするアスリートフードマイスターの養成を支援	A	A	B	B	A
指定管理者の自主事業の充実	スポーツ振興や施設の利用向上を目的とした指定管理者による自主事業の実施	B	B	B	B	B
北洋大学との連携	北洋大学との連携・協力の一環としてスポーツ分野における事業協力を実施	D	D	B	A	D
パラスポーツ教室	障がい者の社会参加促進等を目的にポッチャや車いすバスケットボール等の各種教室を開催	C	C	A	B	A
パラスポーツ体験会	競技人口の拡大や障がいへの理解促進を目的にパラスポーツ体験会を開催	D	D	B	B	A
既存スポーツ施設の改修	施設の有効活用や利用率向上に向けて、老朽化が進んでいる施設を改修・再整備する。	A	A	A	B	A
スポーツ施設の一体管理	各体育館や緑ヶ丘公園スポーツ施設の効果的・効率的な運営のため、指定管理者による一体管理をすすめる。	B	B	B	B	A

2 苫小牧市民の運動・スポーツ活動実態調査概要

(1) 調査方法

- ①回 答 期 間 令和 7 年 3 月 21 日 から 5 月 2 日 まで
- ②調 査 方 法 郵送又は電子による回答
- ③調査対象者 住民基本台帳から無作為抽出した、満 16 歳以上の市民 3,000 人

(2) 回答結果

- ①回 答 数 969 件/3,000 件（※前回実績 1,212 件/3,000 件）
郵送：613 件
電子：356 件
- ②回 答 率 32%（※前回実績 40%）

3 障がいのある方の運動・スポーツ活動実態調査概要

(1) 調査方法

- ①回 答 期 間 令和 7 年 3 月 11 日 から 4 月 11 日 まで
- ②調 査 方 法 郵送又は電子による回答
- ③調査対象者 ・ 苫小牧市身体障がい者福祉連合会の会員 75 名
・ 苫小牧市手をつなぐ育成会の会員 80 名 計 155 名

(2) 回答結果

- ①回 答 数 78 件/155 件（※前回実績 161 件/300 件）
郵送：76 件
電子：2 件
- ②回 答 率 49%（※前回実績 54%）

4 苫小牧市での合宿に関する調査概要

(1) 調査方法

- ①回 答 期 間 令和 7 年 3 月 1 日 から 4 月 30 日 まで
- ②調 査 方 法 電子による回答
- ③調査対象者 ・ 令和 6 年度市内合宿来訪団体 83 団体（国内：78 国外：5）
・ 市内宿泊事業者 9 事業者 ※上記団体が利用した施設

(2) 回答結果

- ①回 答 数 ・ 来訪団体 44 件/83 件（国内：40 国外：4）
・ 宿泊事業者 7 件/9 件
- ②回 答 率 ・ 来訪団体 53%
・ 宿泊事業者 77%

5 スポーツ指導者の実態調査概要

(1) 調査方法

- ①回 答 期 間 令和 7 年 3 月 13 日 から 4 月 18 日 まで
- ②調 査 方 法 電子による回答
- ③調査対象者 市内スポーツ少年団指導者及びスポーツ協会加盟競技団体指導者

(2) 回答結果

- ①回 答 数 38 件

6 スポーツ施策に関する調査概要

(1) 調査方法

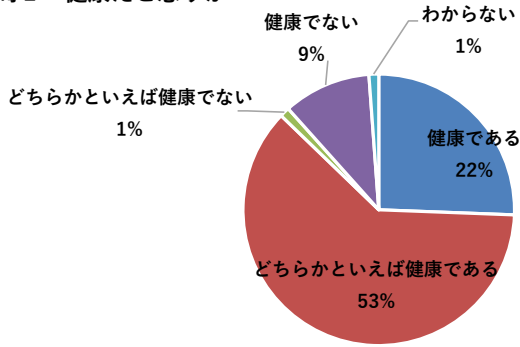
- ①回 答 期 間 令和 7 年 3 月 19 日 から 4 月 30 日 まで
- ②調 査 方 法 電子による回答
- ③調査対象者 スポーツ施設指定管理者職員（令和 6 年〇月時点の職員数 164 人）

(2) 回答結果

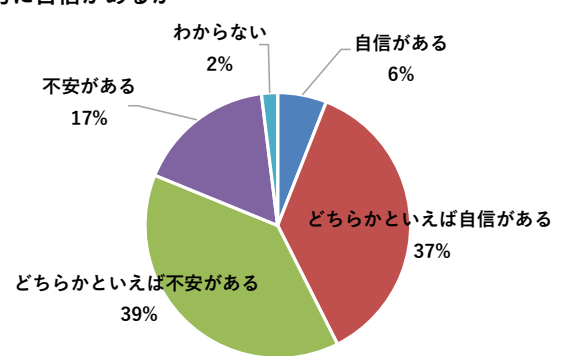
- ①回 答 数 46 件/164 件
- ②回 答 率 28%

7 各調査データ【苫小牧市民の運動・スポーツ活動実態調査】

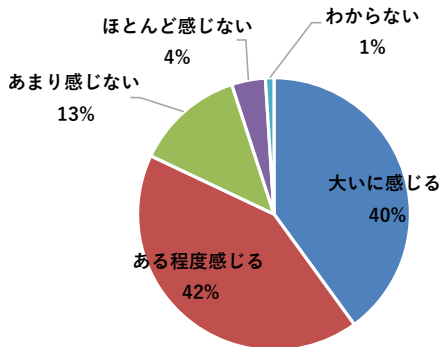
問1 健康だと思うか



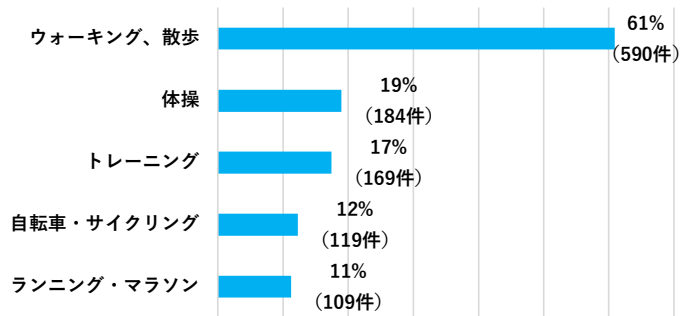
問2 体力に自信があるか



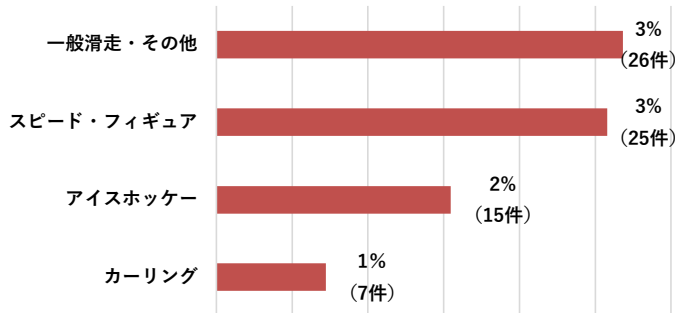
問3 運動不足だと感じるか



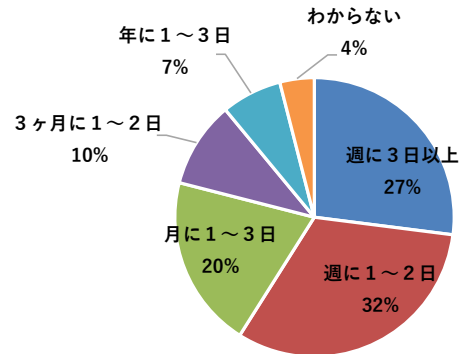
問4-1 この1年間に行ったスポーツ (上位5)



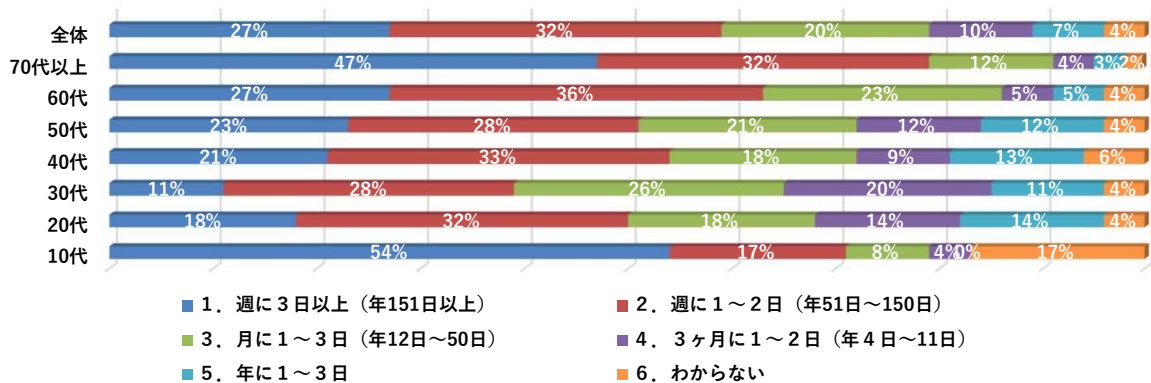
問4-2 この1年に行ったスポーツ (氷上スポーツ)



問5 スポーツ実施率

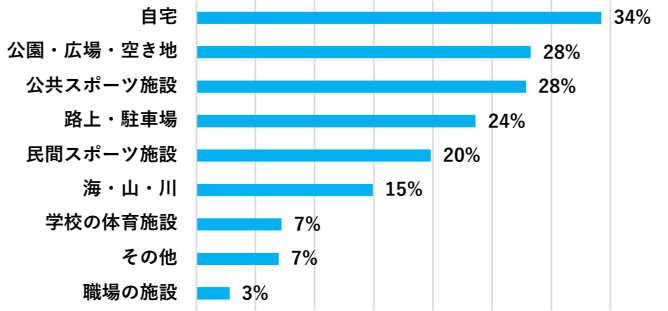


問5-1 スポーツ実施率 (年代別)

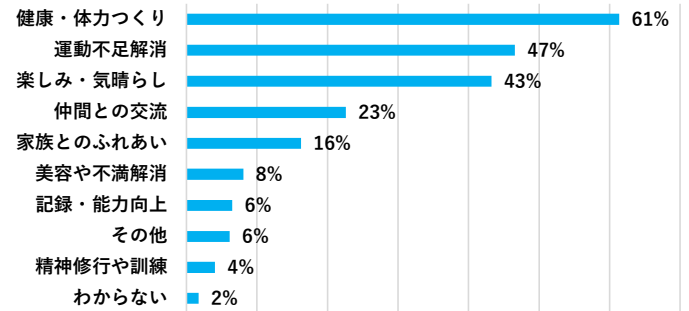


7 各調査データ【苫小牧市民の運動・スポーツ活動実態調査】

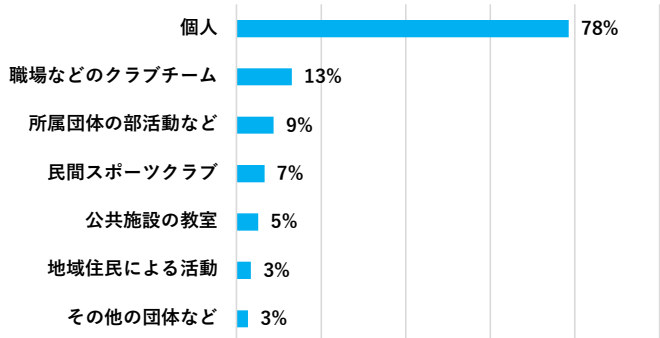
問7 スポーツを最もよく行う場所



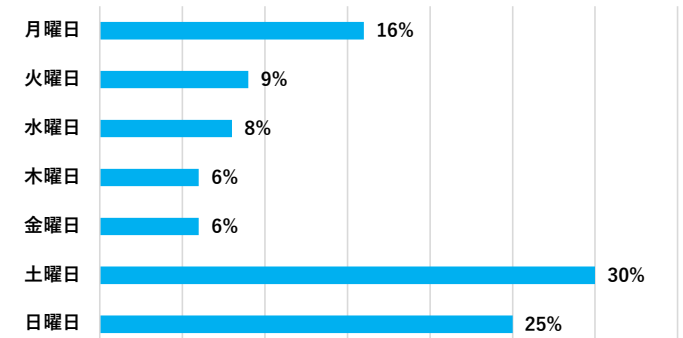
問6 スポーツを行った理由



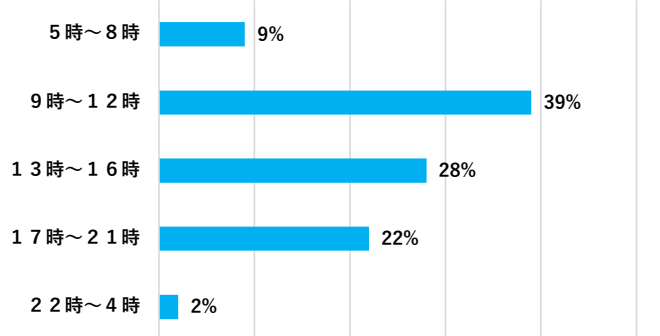
問8 スポーツを行う際の参加形態



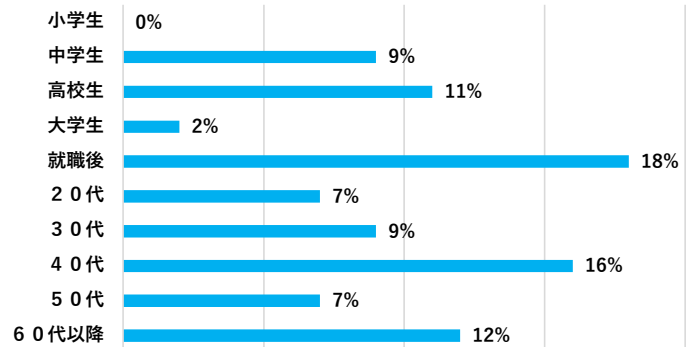
問9 スポーツを最もよく行う曜日



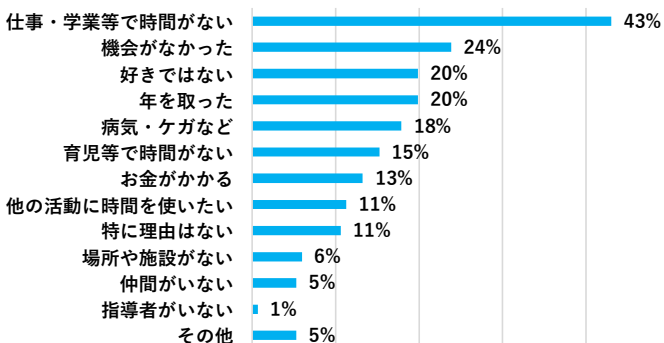
問10 スポーツを最もよく行う時間帯



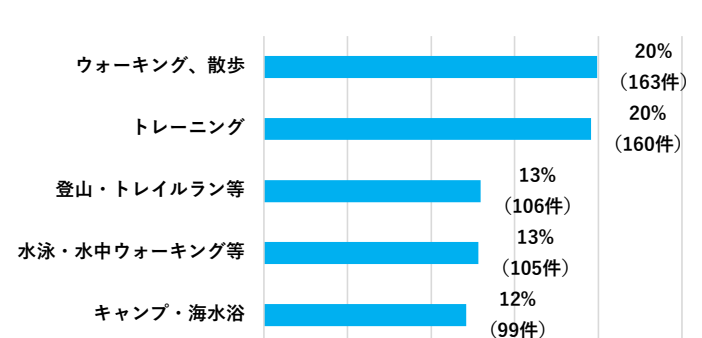
問11 スポーツをやめた時期



問12 スポーツをやめた理由

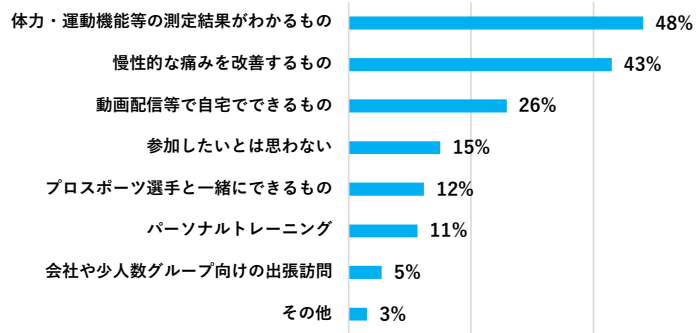


問13 今後行ってみたいスポーツ

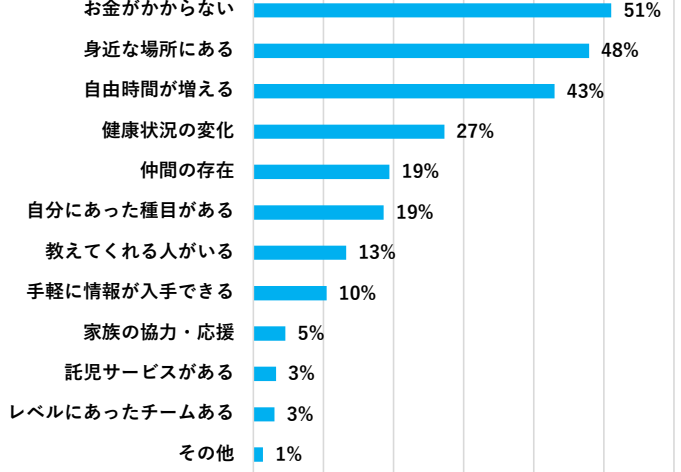


7 各調査データ【苫小牧市民の運動・スポーツ活動実態調査】

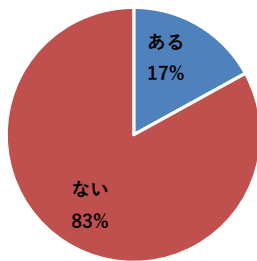
問14 参加したい・してみたいと思うプログラム



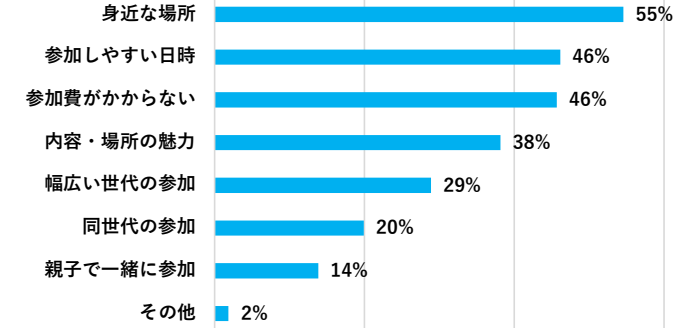
問15 新たにスポーツを始める際に重要なこと



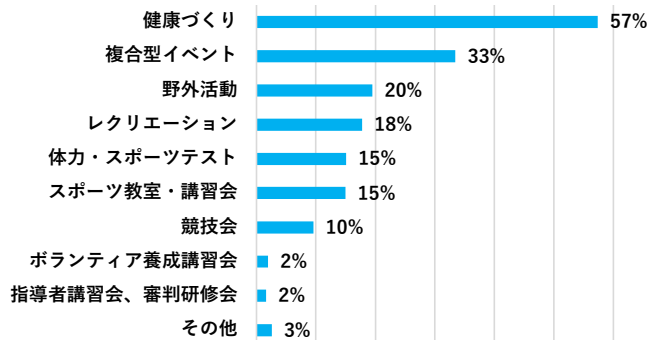
問16 地域スポーツ活動への参加状況



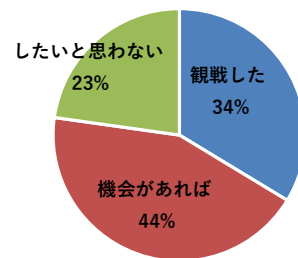
問17 地域スポーツ活動に参加するために重要なこと



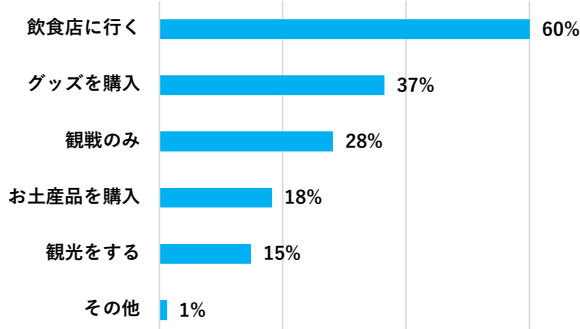
問18 参加したいと思うスポーツ行事



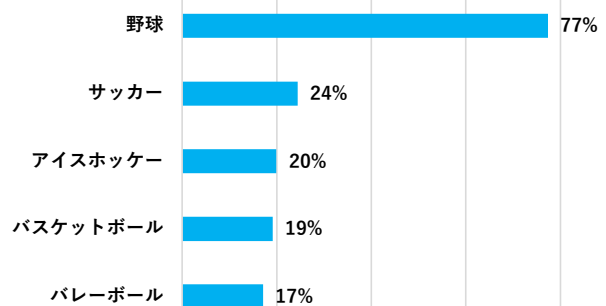
問19 スポーツ観戦率



問20 観戦時の行動

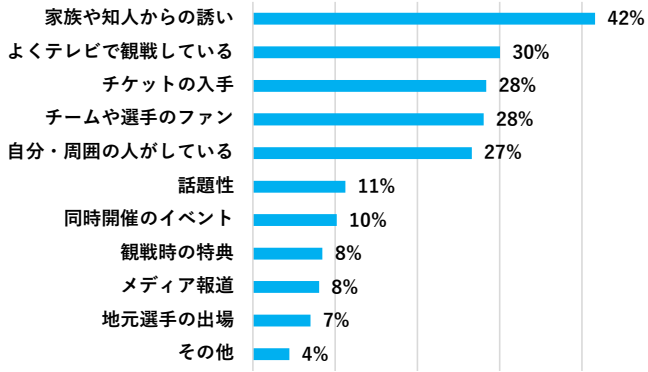


問21 観戦した・してみたいスポーツ（上位5）

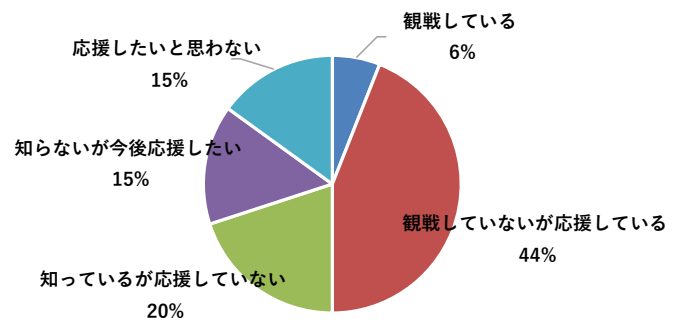


7 各調査データ【苫小牧市民の運動・スポーツ活動実態調査】

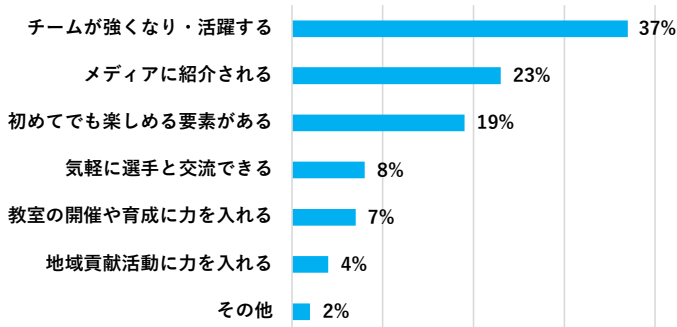
問22 観戦のきっかけ



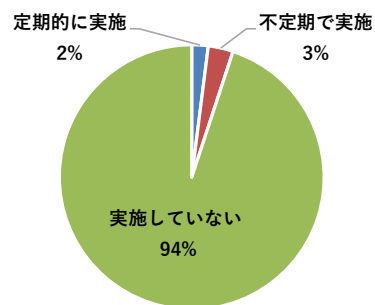
問23 地元出身アスリートの観戦率



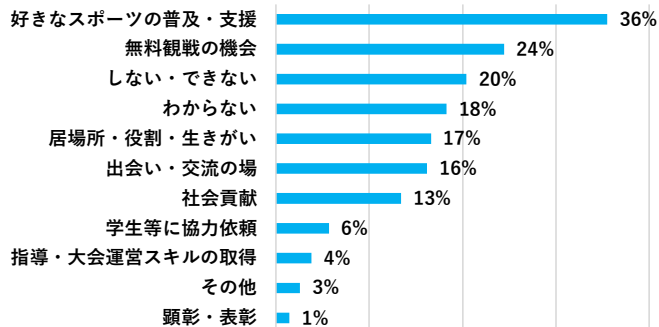
問24 地元出身アスリートを応援するには



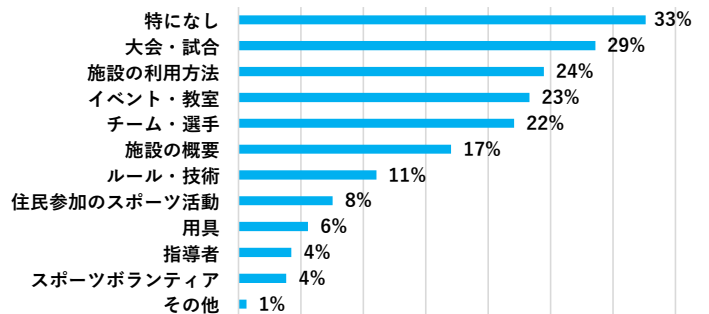
問25 スポーツボランティア実施率



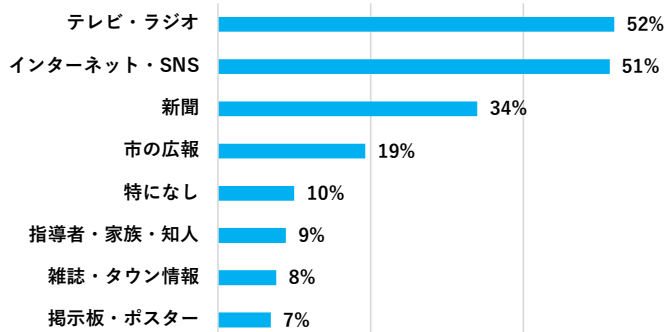
問26 スポーツボランティアを行うために必要なこと



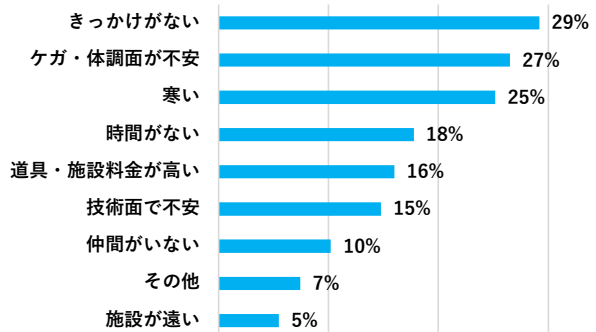
問27 スポーツに関する興味のある情報



問28 情報の入手方法

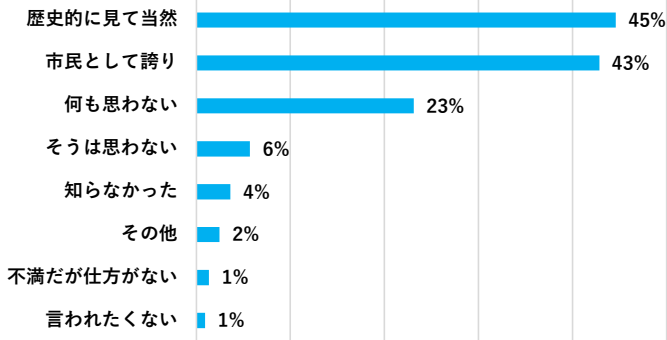


問29 氷上スポーツをしない理由

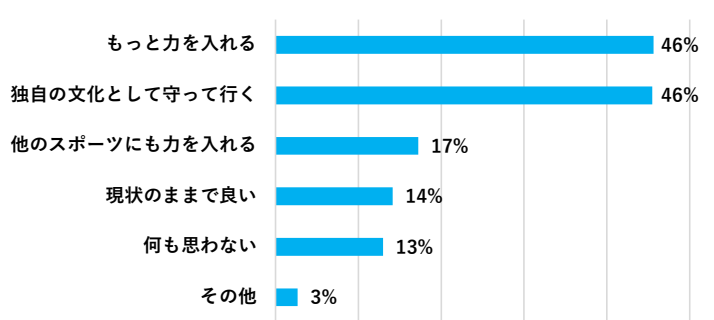


7 各調査データ【苫小牧市民の運動・スポーツ活動実態調査】

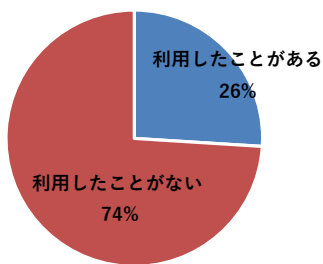
問30 氷都に対する意識



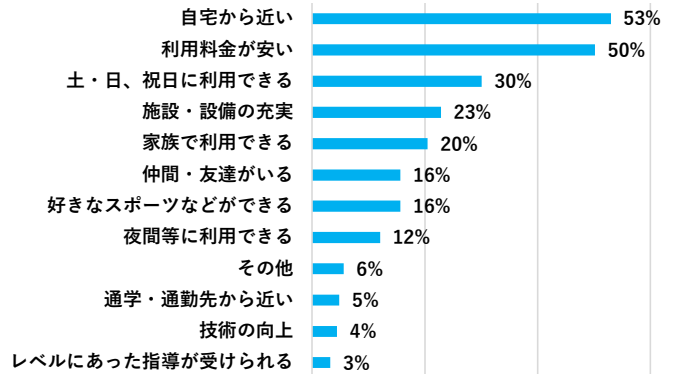
問31 氷都としてどういべきか



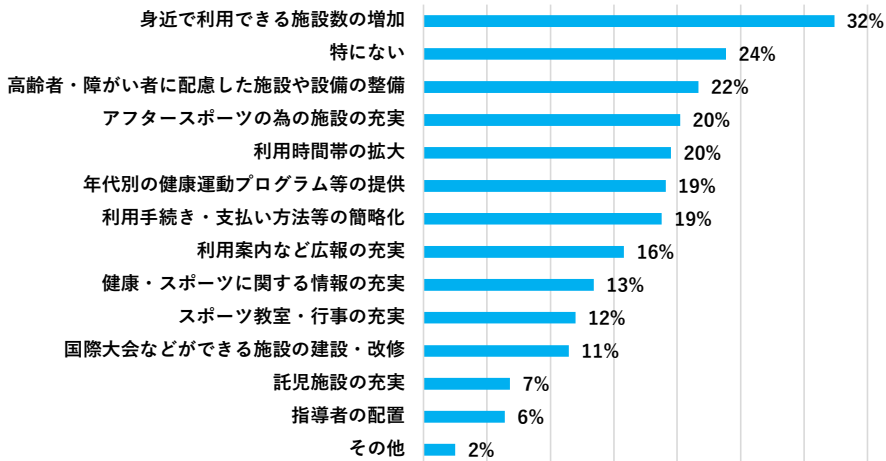
問32 スポーツ施設の利用



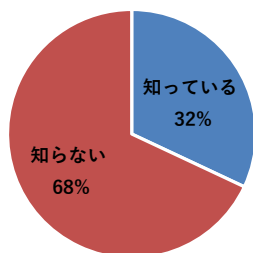
問33 施設を利用する理由



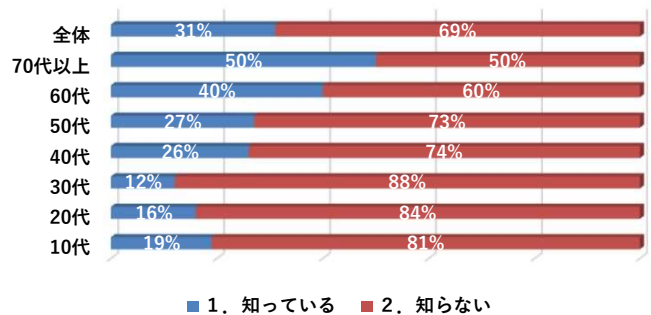
問34 施設に望むこと



問35-1 スポーツ都市宣言の認知度

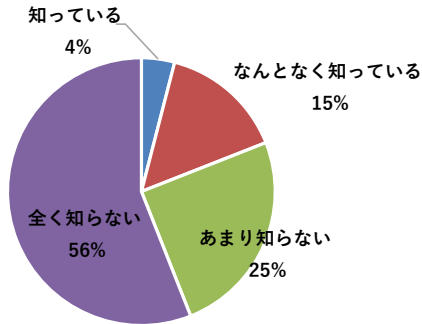


問35-2 スポーツ都市宣言の認知度（年代別）

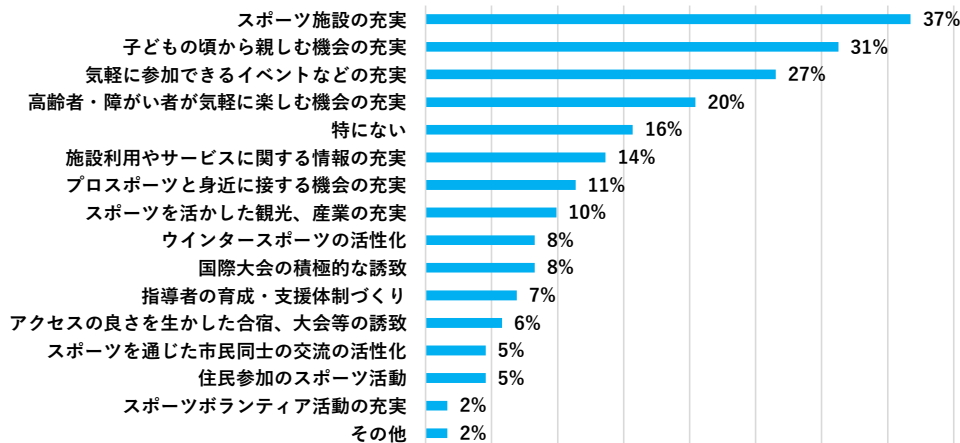


7 各調査データ【苫小牧市民の運動・スポーツ活動実態調査】

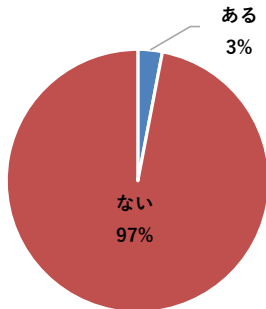
問36 スポーツ都市宣言の内容について



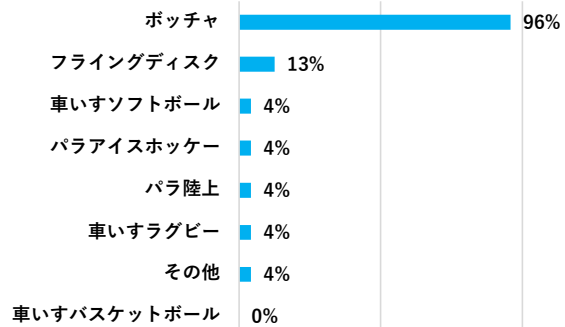
問37 力を入れてほしい施策



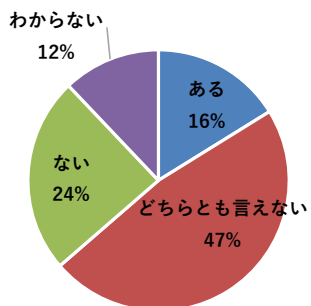
問38 障がい者スポーツを体験したことがあるか



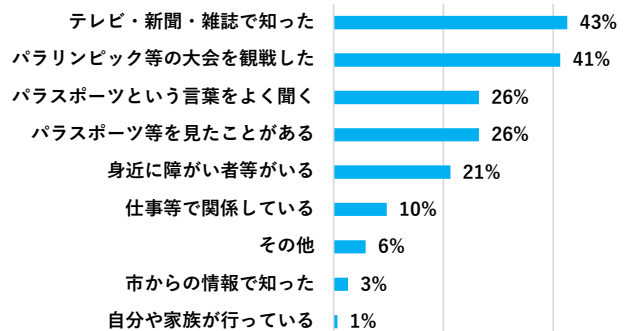
問39 体験したことのある障がい者スポーツ



問40 障がい者スポーツへの関心

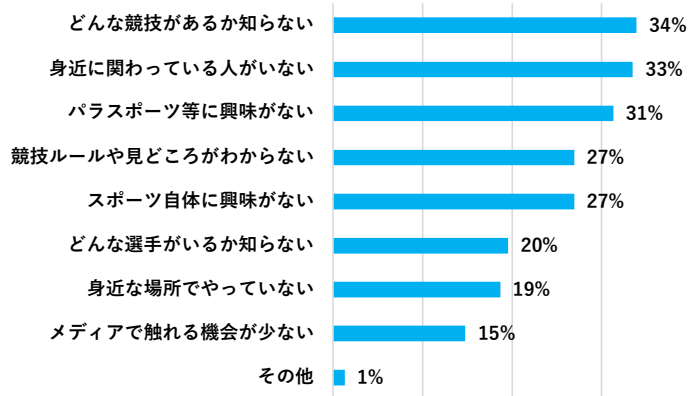


問41 障がい者スポーツに関心がある理由

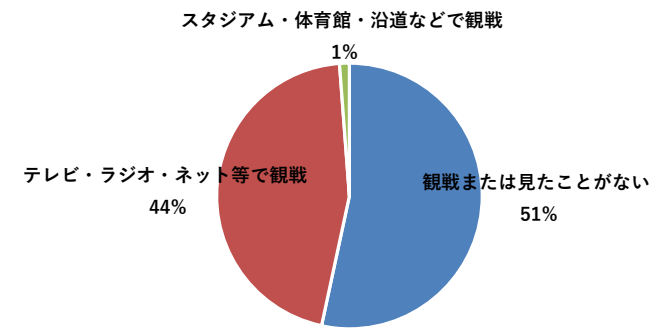


7 各調査データ【苫小牧市民の運動・スポーツ活動実態調査】

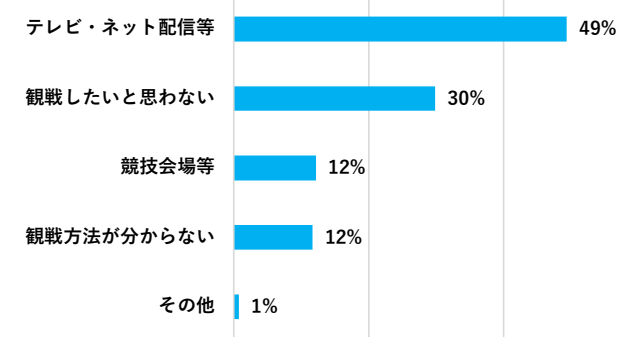
問42 障がいスポーツに関心がない理由



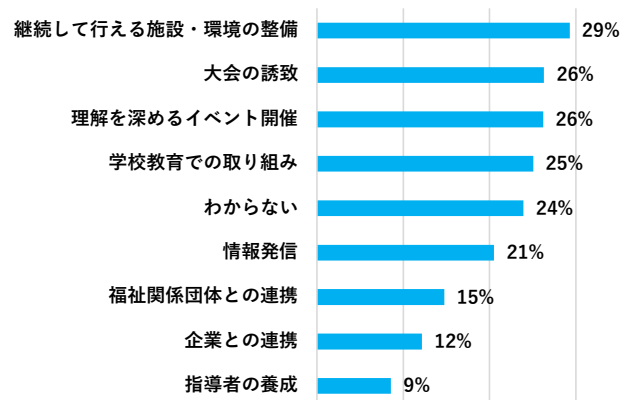
問43 障がい者スポーツ観戦状況



問44 観戦方法

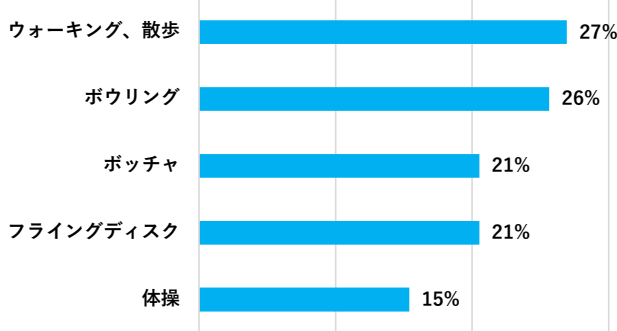


問45 障がいスポーツの推進のために取り組むこと

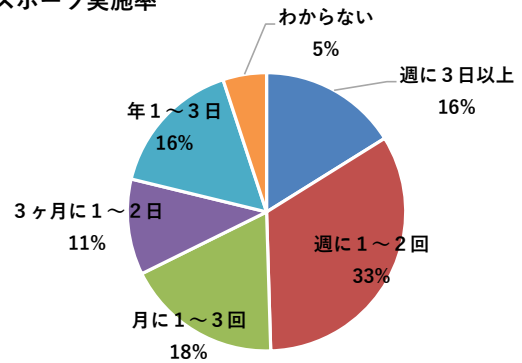


7 各調査データ【障がいのある方の運動・スポーツ活動実態調査】

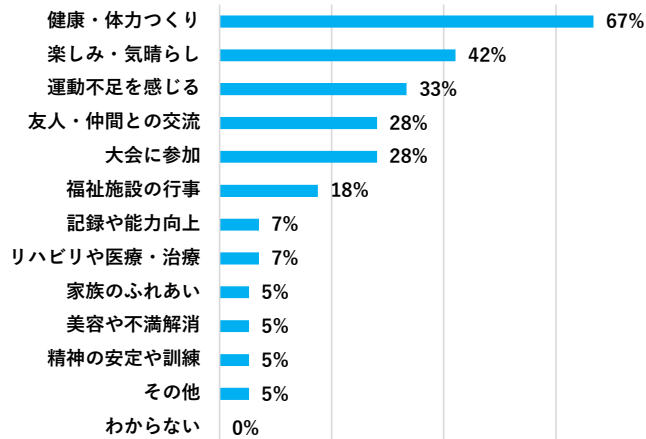
問1 この1年間で行ったスポーツ（上位5）



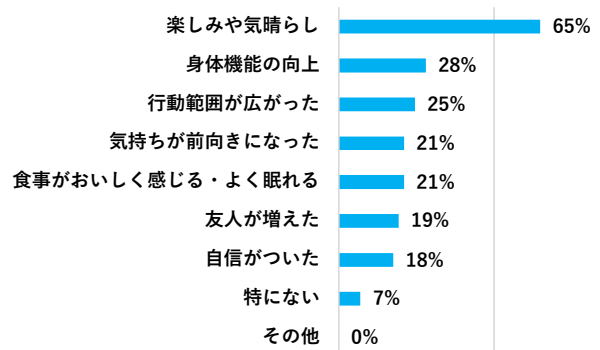
問2 スポーツ実施率



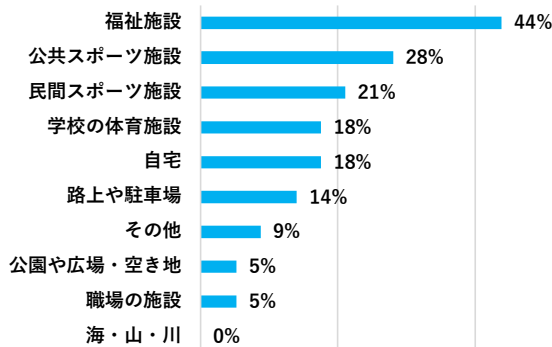
問3 スポーツをした理由



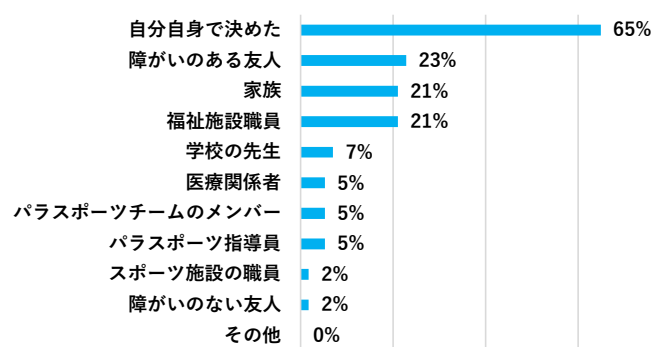
問4 スポーツを行って良かったこと



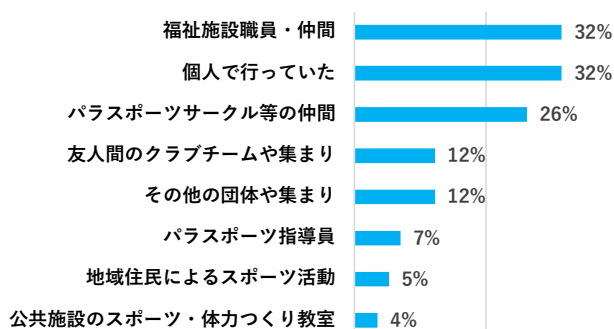
問5 スポーツを最もよく行う場所



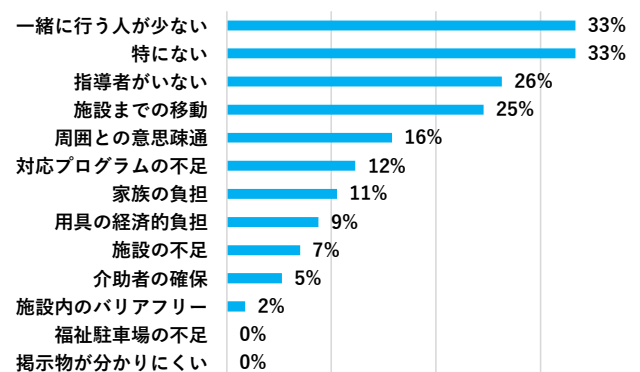
問6 運動・スポーツを進めてくれた人



問7 スポーツを一緒に行う仲間

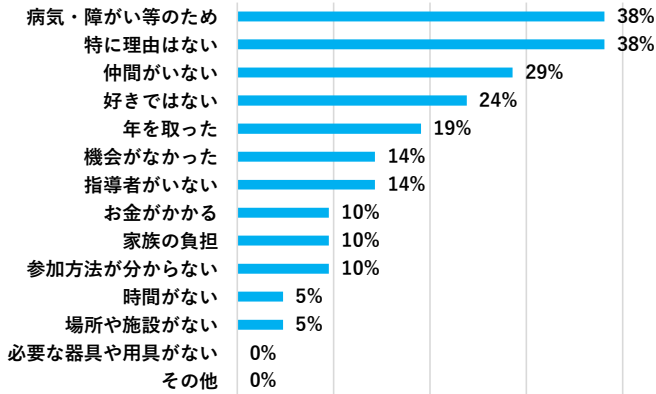


問8 スポーツを行う上での課題

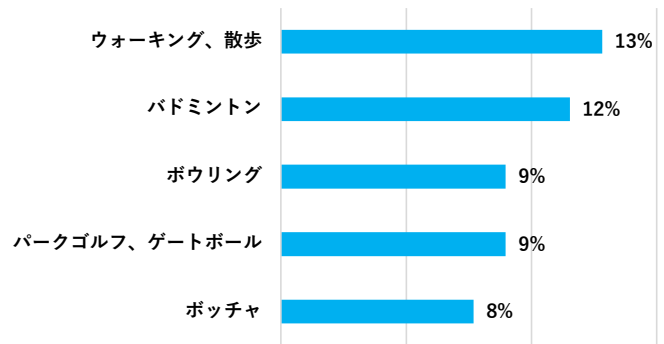


7 各調査データ【障がいのある方の運動・スポーツ活動実態調査】

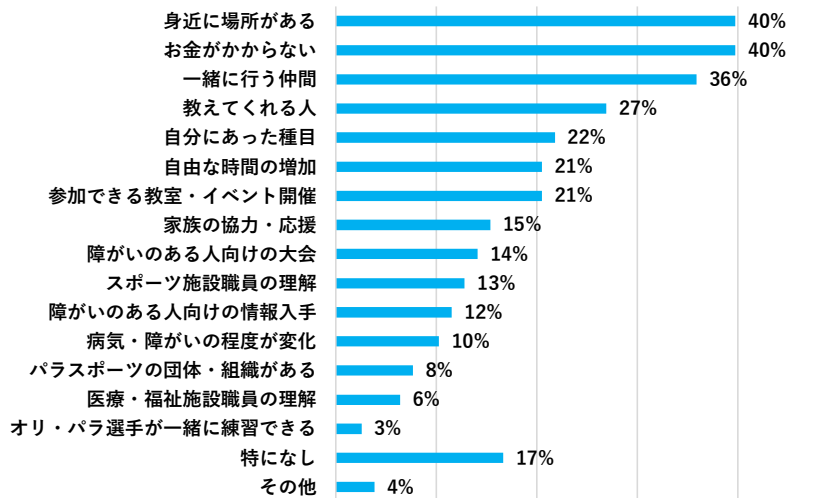
問9 1年間にスポーツをしなかった理由



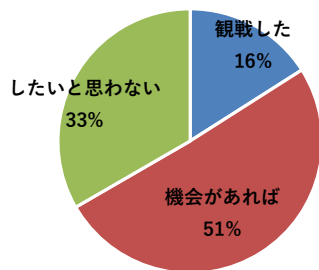
問10 今後行ってみたいスポーツ（上位5）



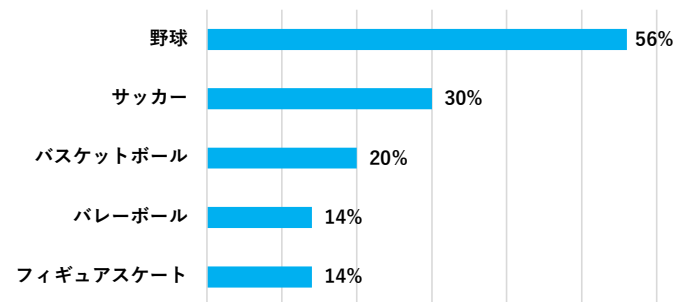
問11 新しくスポーツを始める（今以上に行うため）に重要なこと



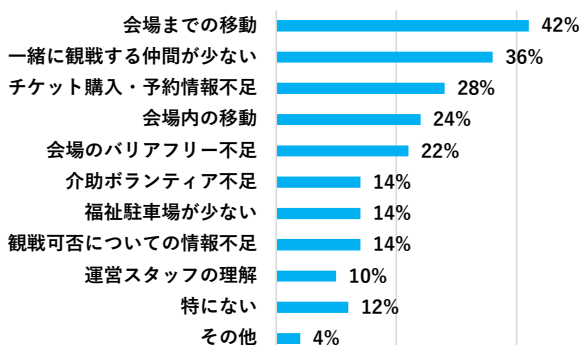
問12 この1年に直接スポーツを観戦したか



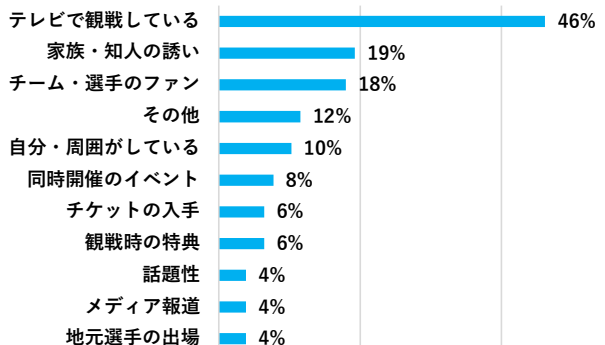
問13 観戦した（したい）スポーツ（上位5）



問14 観戦する上での課題

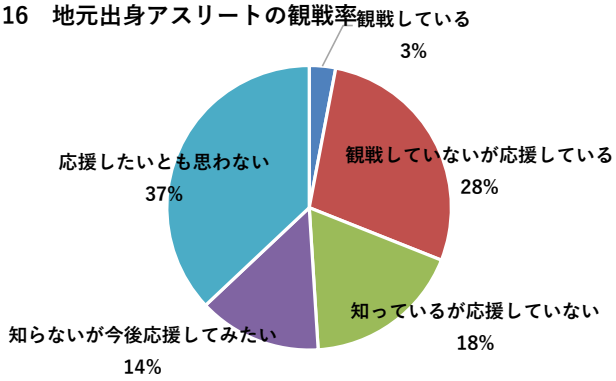


問15 スポーツ観戦をした（する）きっかけ

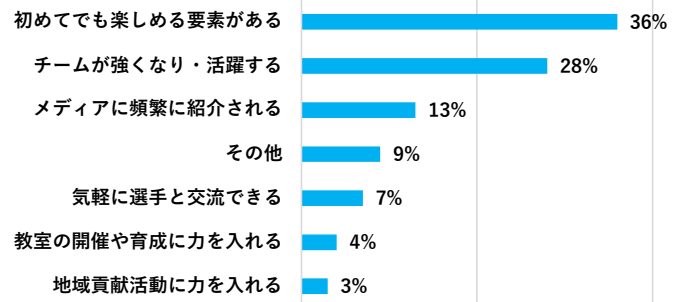


7 各調査データ【障がいのある方の運動・スポーツ活動実態調査】

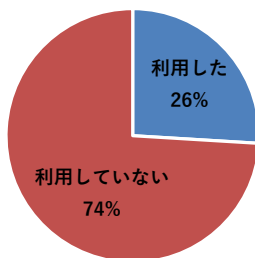
問16 地元出身アスリートの観戦率



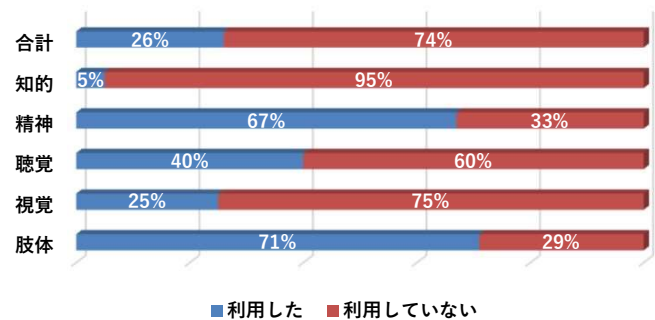
問17 地元出身アスリートを応援するには



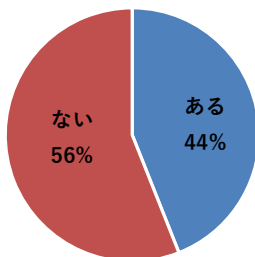
問18-1 1年間に市営スポーツ施設を利用したか



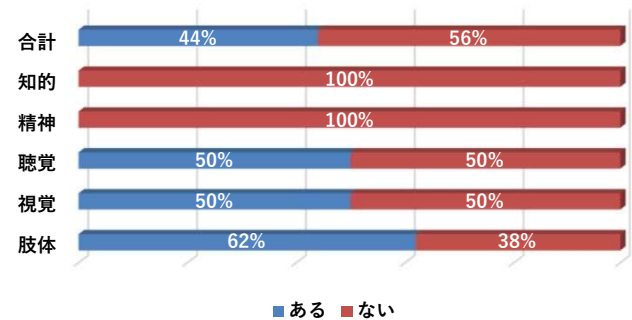
問18-2 この1年間に市営スポーツ施設を利用したか



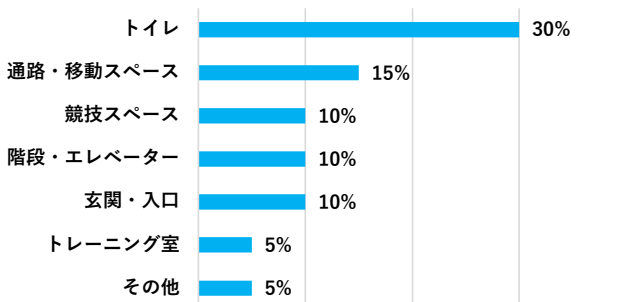
問19-1 バリアフリー化が進んでいる施設はあるか



問19-2 バリアフリー化が進んでいる施設はあるか

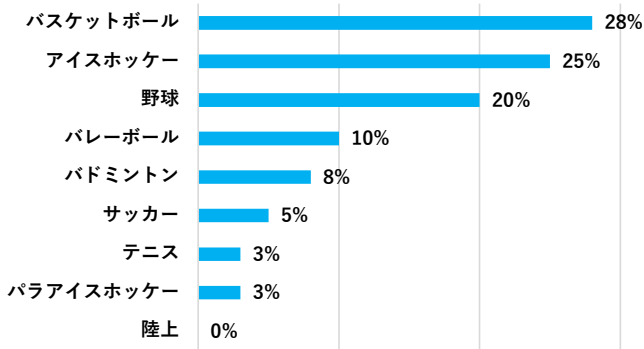


問20 施設で利便性がよくないと感じる所

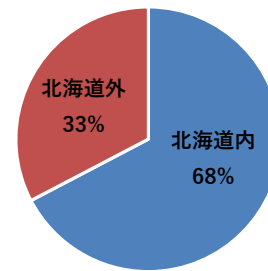


7 各調査データ【苫小牧市での合宿に関する調査（来訪団体）】

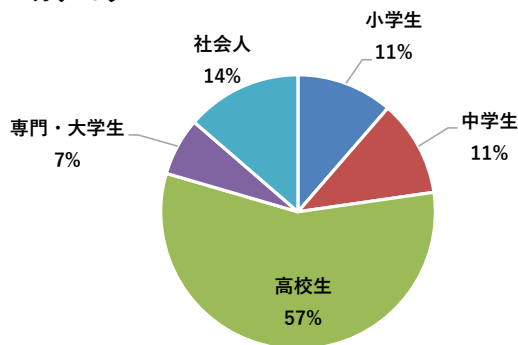
問1 種目



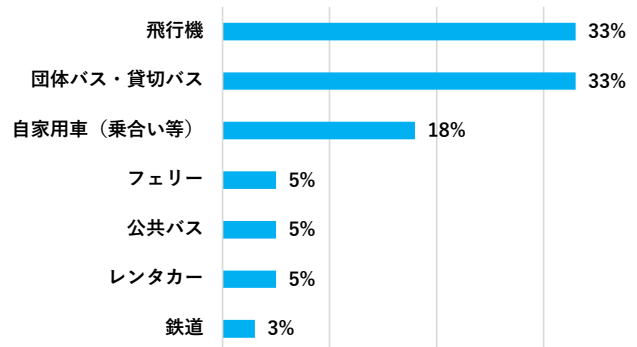
問2 所在地



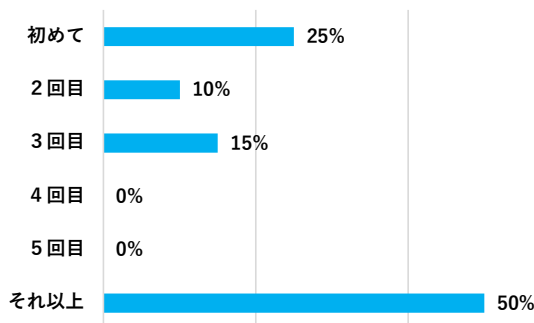
問3 カテゴリ



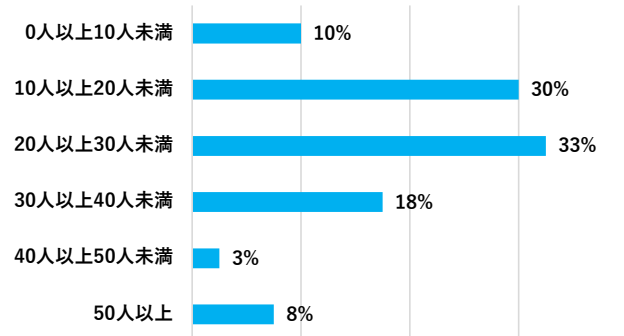
問4 交通手段



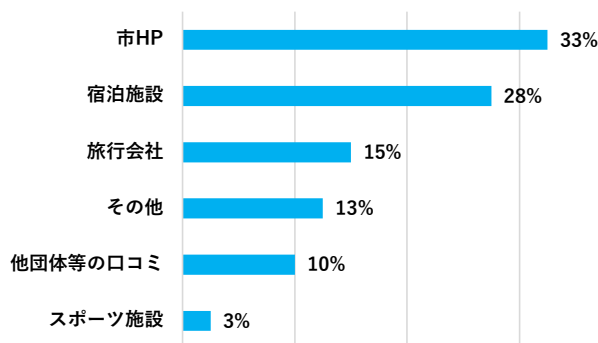
問5 苫小牧市での合宿回数



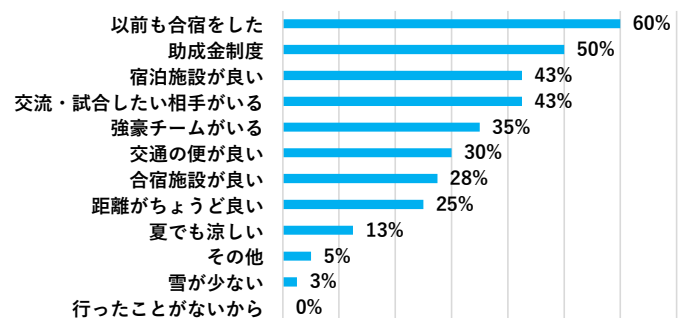
問6 合宿参加人数



問7 合宿助成金を何で知ったか

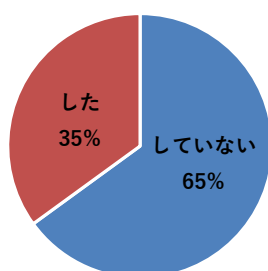


問8 苫小牧を選んだ理由

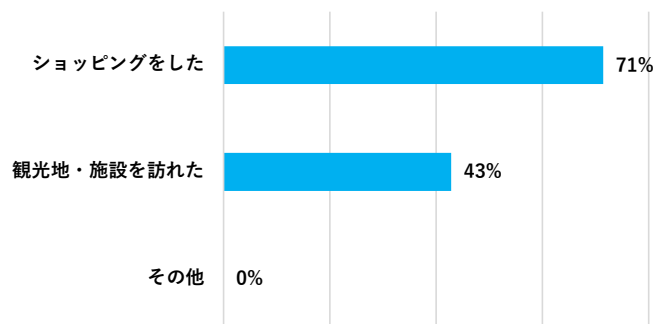


7 各調査データ【苫小牧市での合宿に関する調査（来訪団体）】

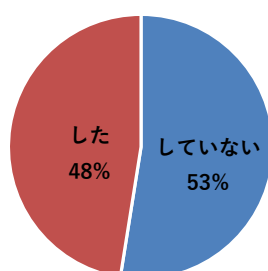
問9 観光やショッピングをしたか



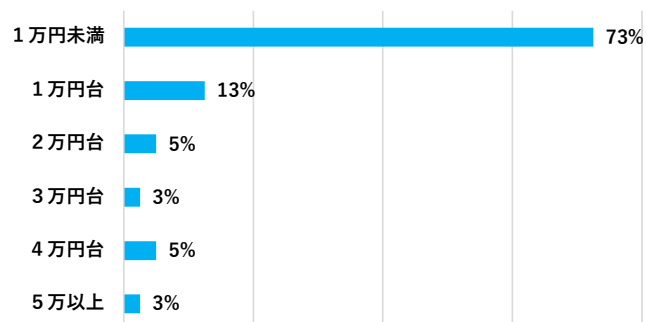
問10 観光やショッピングをした場所



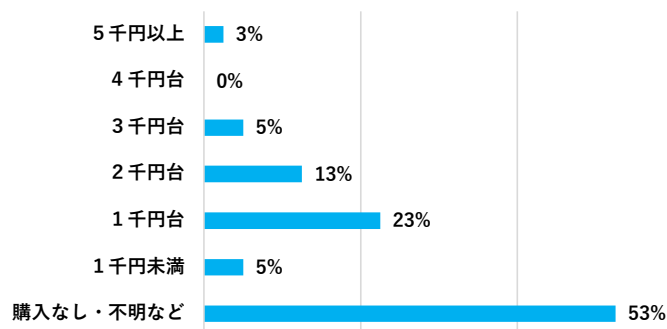
問11 宿泊施設以外での飲食



問13 市内での交通費（1人あたり）

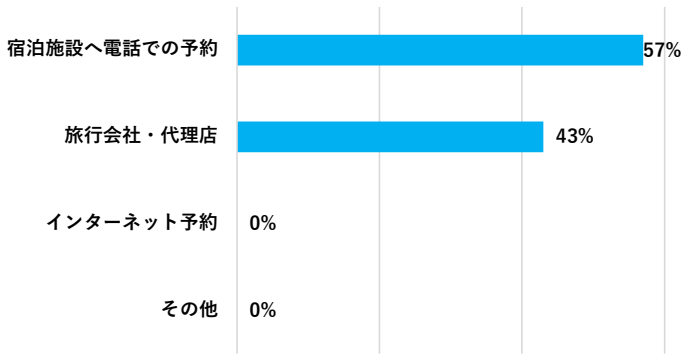


問14 お土産代（1人あたり）

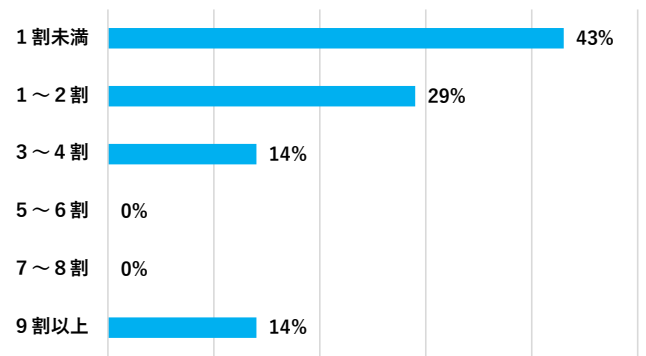


6 各調査データ【苫小牧市での合宿に関する調査（宿泊事業者）】

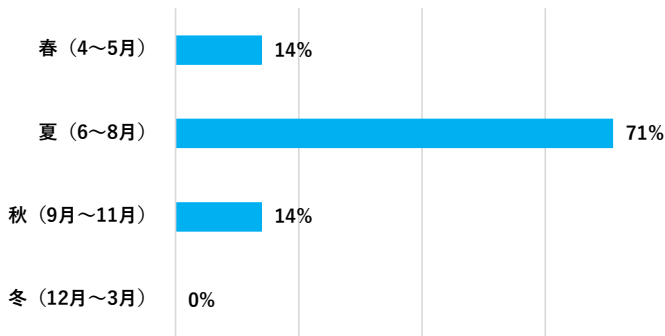
問1 一番多い予約方法



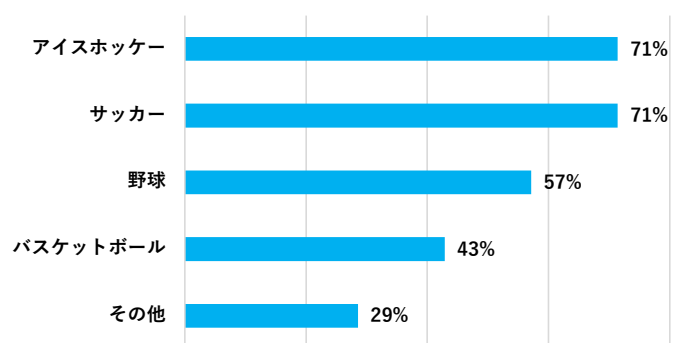
問2 スポーツ合宿が全体に占める割合



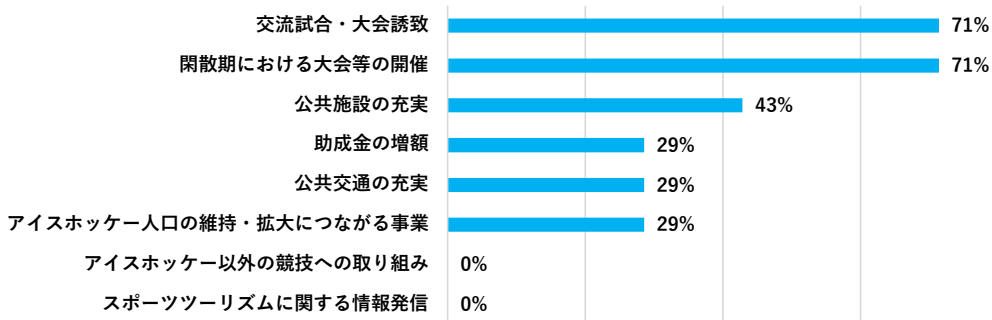
問3 スポーツ合宿が多い時期



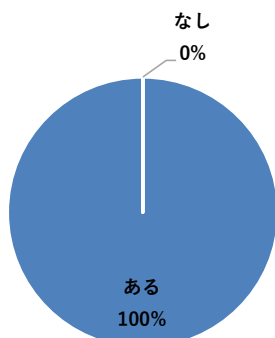
問4 経済効果が見込まれる競技（上位5）



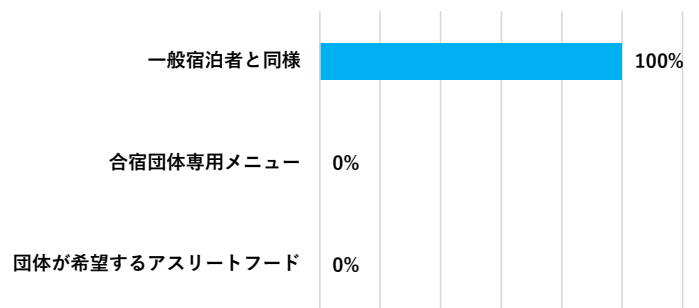
問5 スポーツ行政に求めるもの



問6 スポーツが宿泊した団体への食事提供

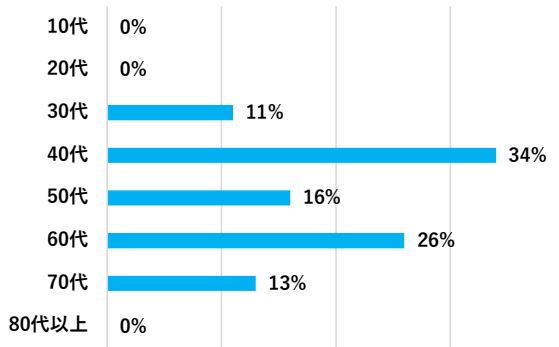


問7 提供した食事メニュー

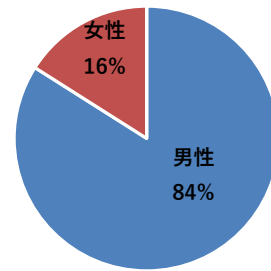


7 各調査データ【スポーツ指導者の実態調査】

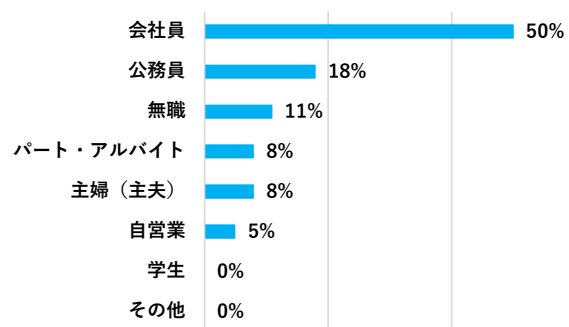
問1 年代



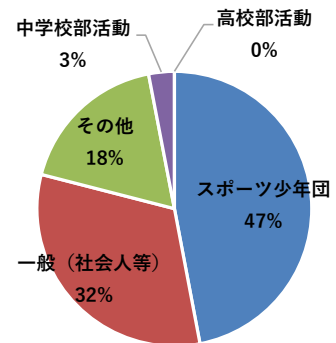
問2 性別



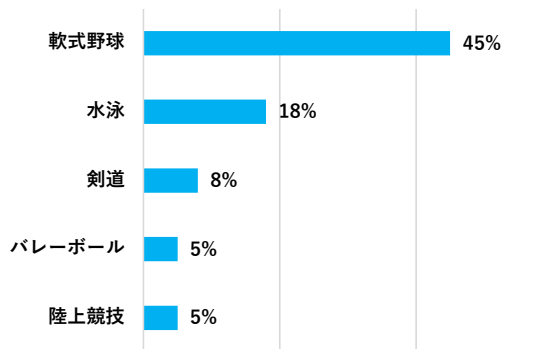
問3 仕事



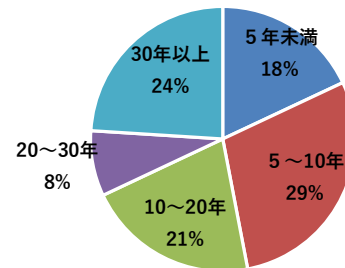
問4 指導カテゴリー



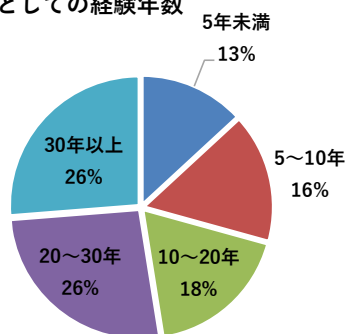
問5 メインで指導している競技（上位5）



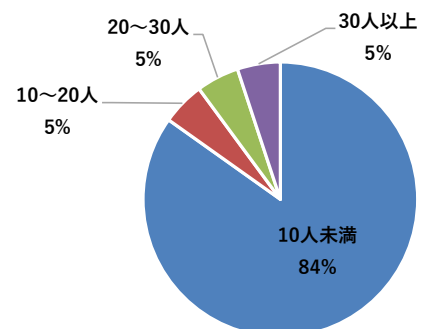
問6 指導経験年数



問7 競技者としての経験年数

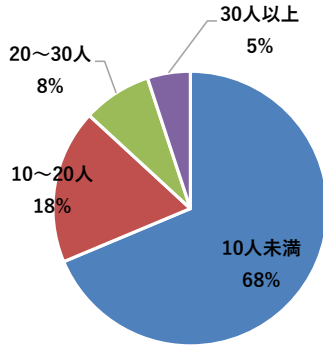


問8 選手のうち幼児（就学前）の人数

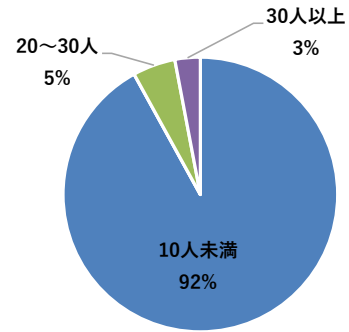


7 各調査データ【スポーツ指導者の実態調査】

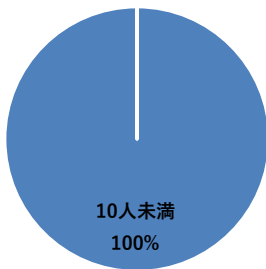
問9 選手のうち小学生の人数



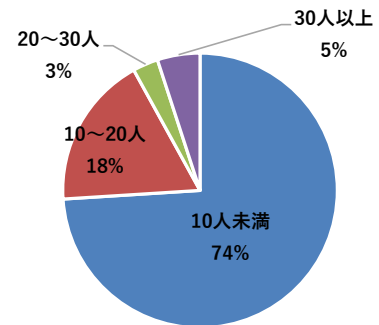
問10 選手のうち中学生の人数



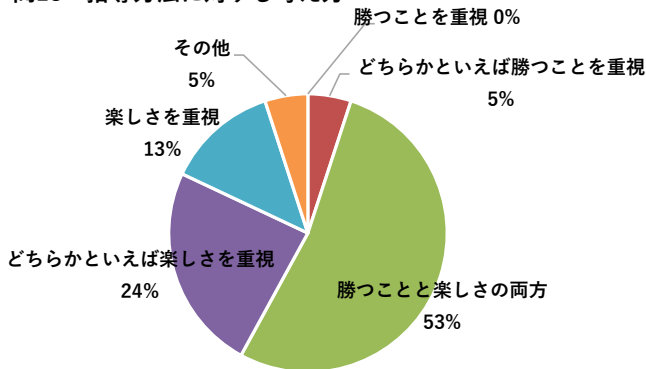
問11 選手のうち高校生の人数



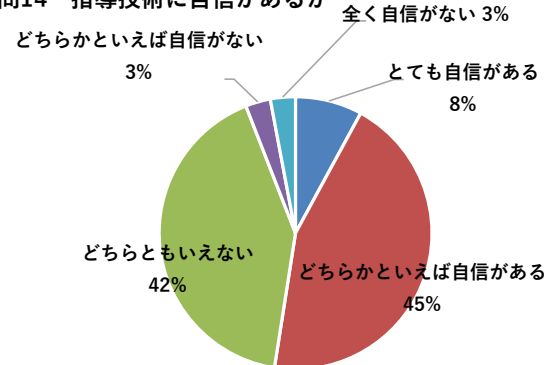
問12 選手のうち大学生・社会人等の人数



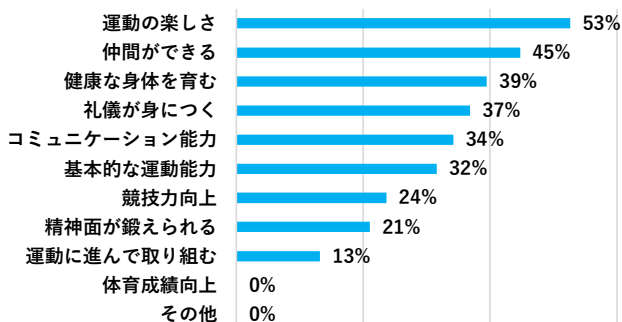
問13 指導方法に対する考え方



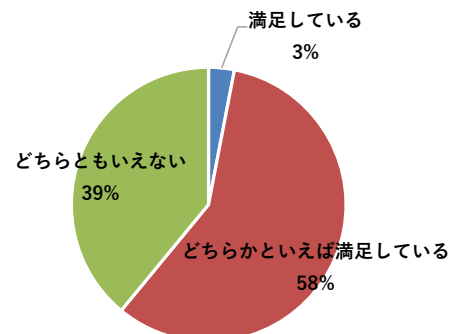
問14 指導技術に自信があるか



問15 どのような効果を期待しているか

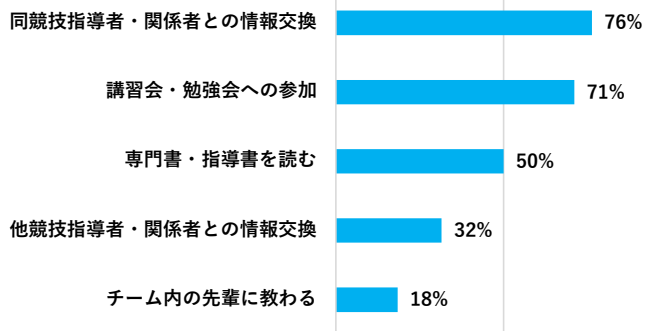


問16 指導に対する満足度

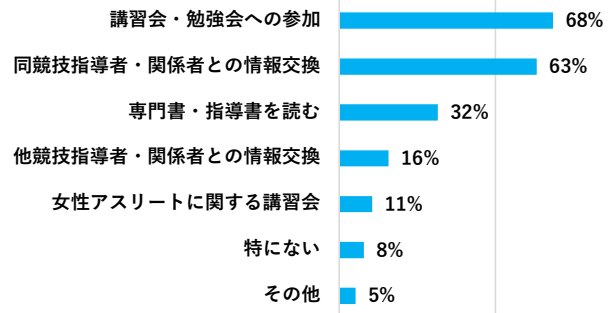


7 各調査データ【スポーツ指導者の実態調査】

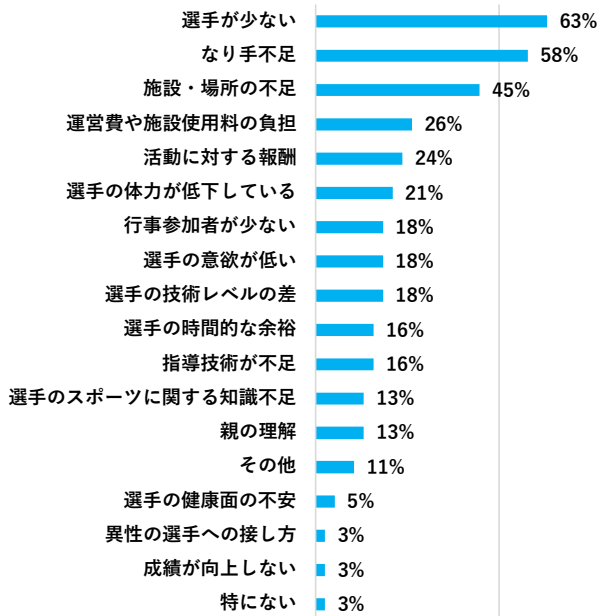
問17 コーチングスキルを向上させるために行っていること



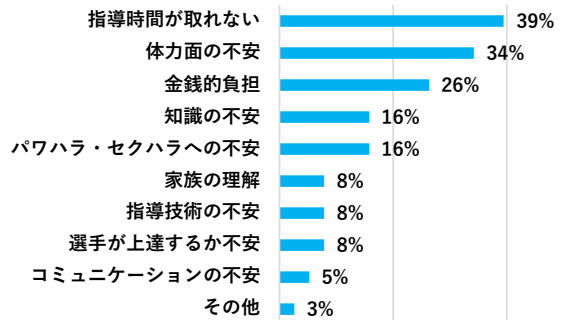
問18 コーチングスキルを向上させるために、新たに
行いたいこと



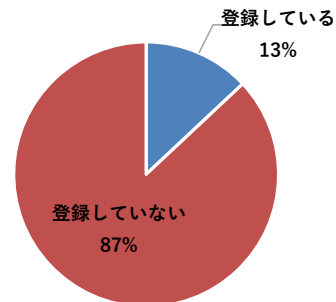
問19 指導を行う際に問題になっていること



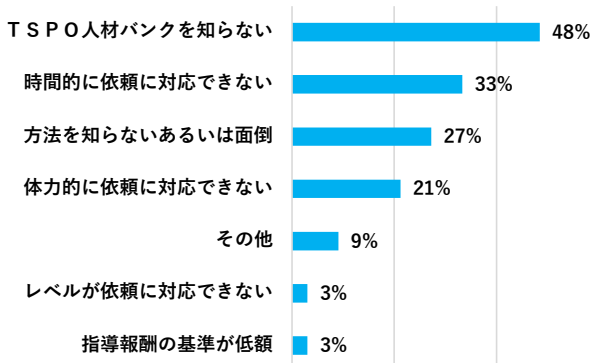
問20 指導していく上で、抱えている課題



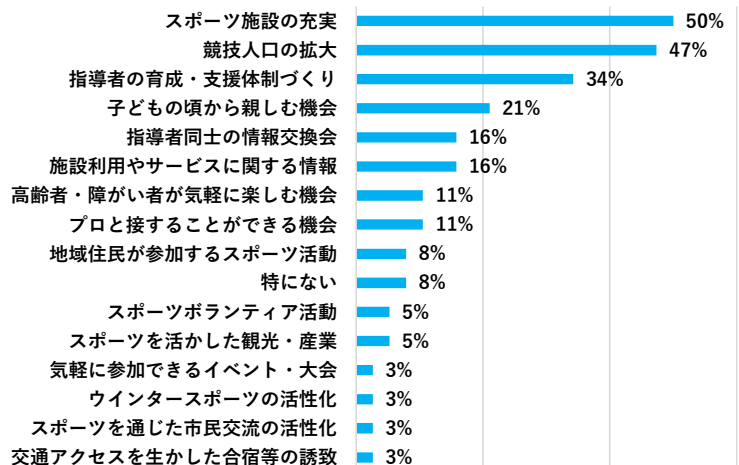
問21 TSPO人材バンク登録状況



問22 TSPO人材バンクに登録しない理由

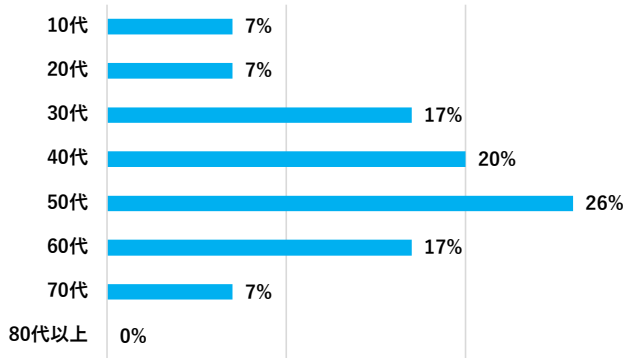


問23 力を入れて欲しいスポーツ施策

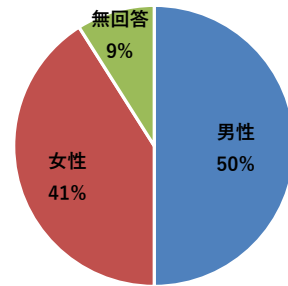


7 各調査データ【スポーツ施策に関する調査（スポーツ施設従事者へのアンケート）】

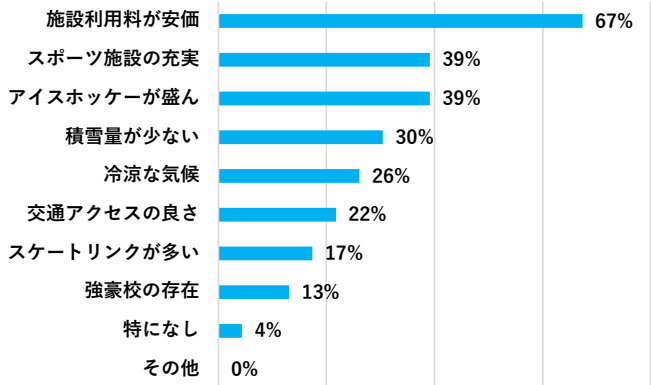
問1 年代



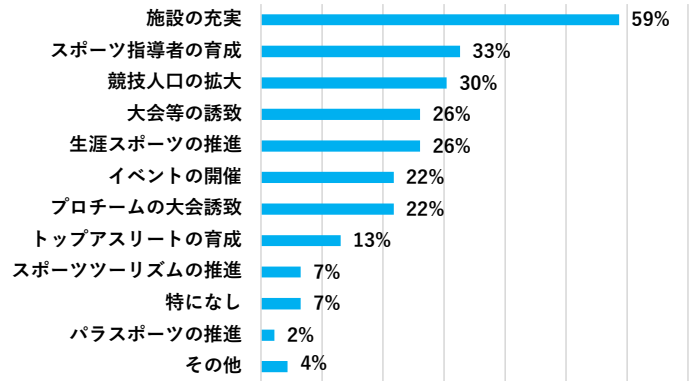
問2 性別



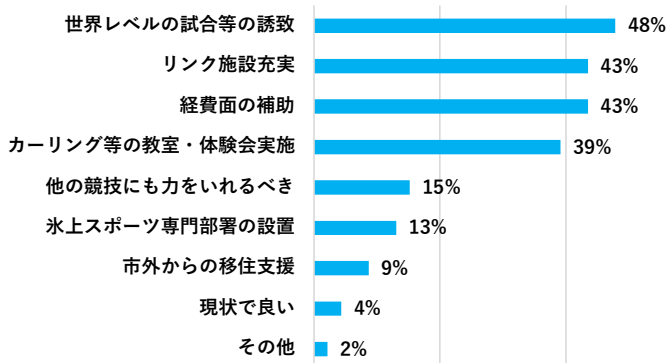
問3 市のスポーツ分野において優れている点



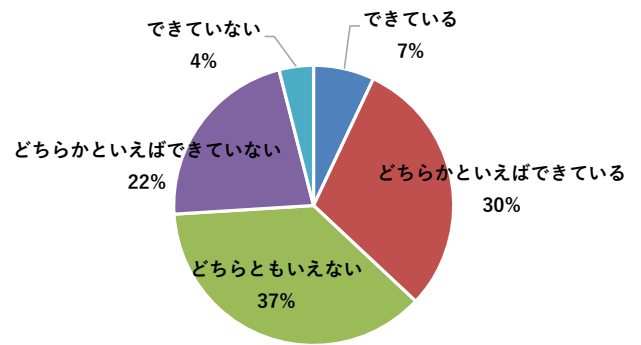
問4 今後注力すべきこと



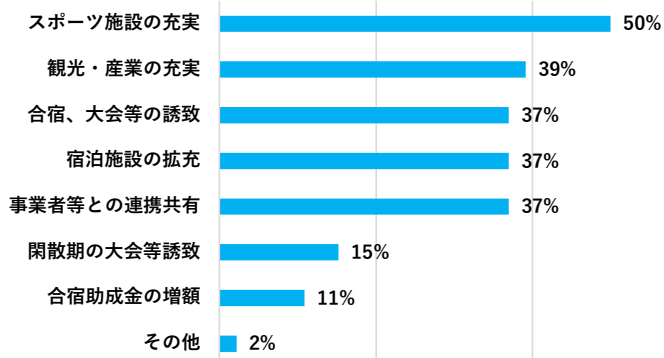
問5 氷上スポーツの競技人口拡大のための取組



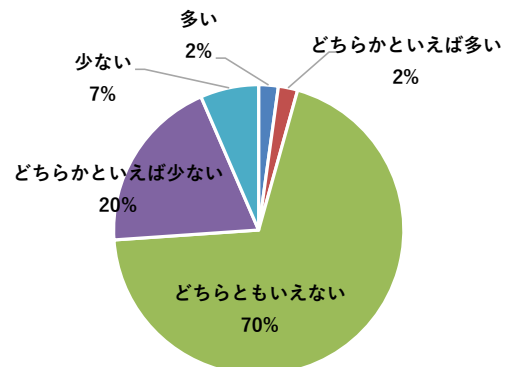
問6 スポーツツーリズムの実現度



問7 スポーツツーリズム実現（充実）のために必要なこと

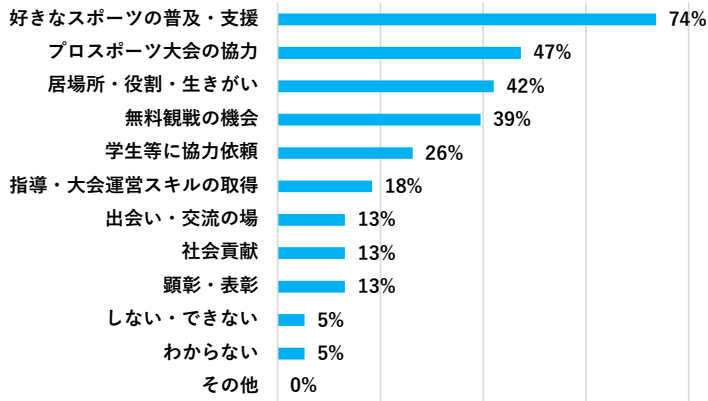


問8 スポーツボランティアの人数

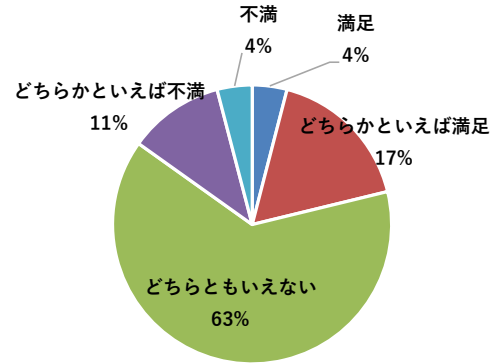


7 各調査データ【スポーツ施策に関する調査（スポーツ施設従事者へのアンケート）】

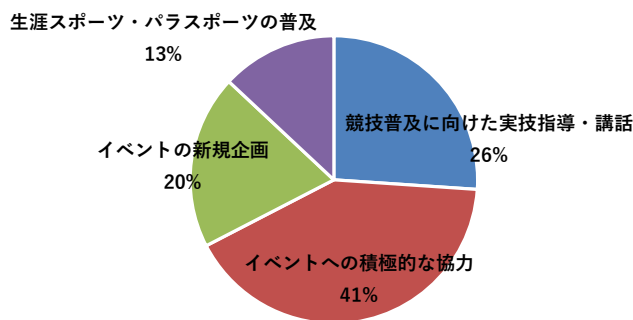
問9 スポーツボランティアが増えるために必要なこと



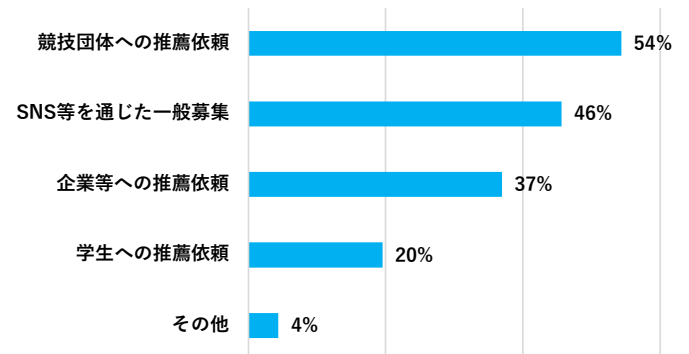
問10 推進委員活動について



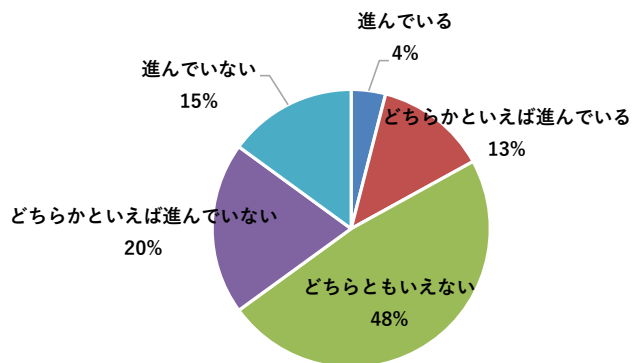
問11 推進委員活動で最も必要なこと



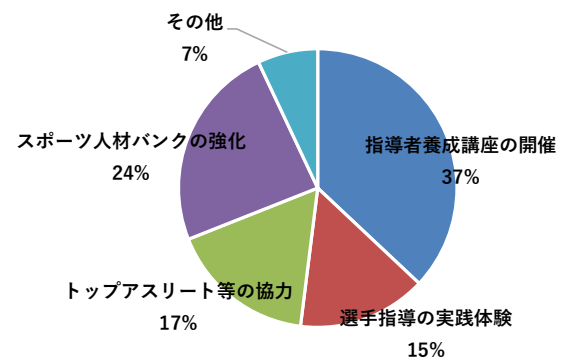
問12 推進委員の募集方法



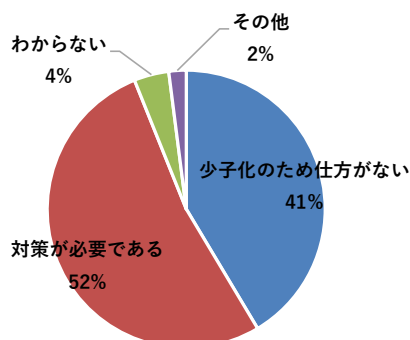
問13 指導者育成について



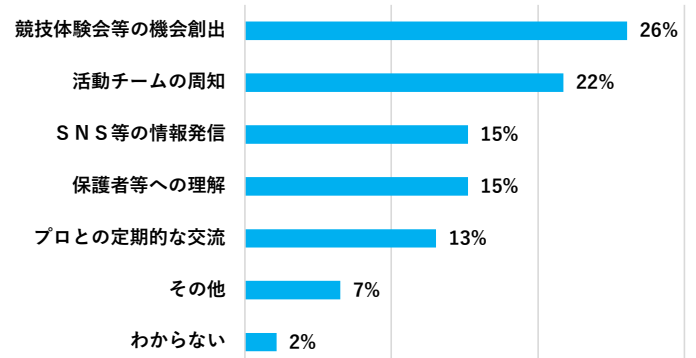
問14 指導者育成に必要な取り組み



問15 スポーツ少年団の現状について

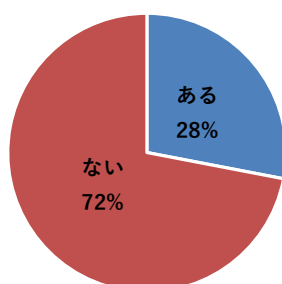


問16 減少対策として必要なもの

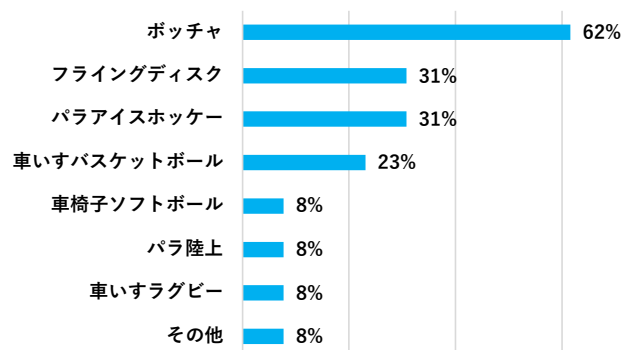


7 各調査データ【スポーツ施策に関する調査（スポーツ施設従事者へのアンケート）】

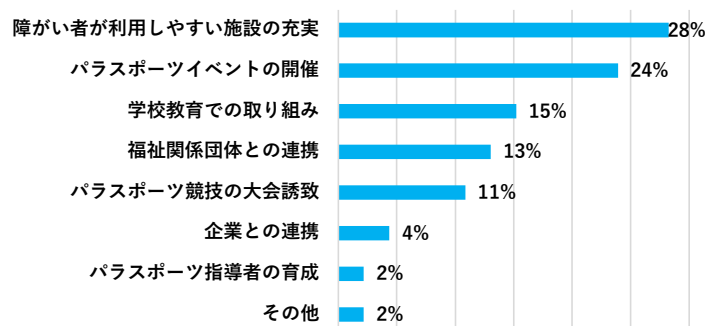
問17 パラスポーツ競技の体験



問18 体験したパラスポーツ



問19 パラスポーツ振興に必要な取り組み



8 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査（抜粋）

（1）調査学校数

苫小牧市	小学校（第5学年）		中学校（第2学年）			
	児童数		学校数	生徒数		学校数
男女別	男子	女子	23 (前期課程1校)	男子	女子	15 (後期課程1校)
児童生徒数	743	667		645	621	
計	1, 410			1, 266		

（2）児童・生徒質問紙調査 ※単位は%

小学校5年生		運動やスポーツをすることが好き	運動やスポーツが大切	中学校に進んだら、授業以外でも自主的に運動する時間をもちたい	体育授業以外における1週間の総運動時間が60分未満	朝食を毎日、食べる
全国	男	73.0	71.6	89.3	9.2	81.3
	女	54.8	59.0	84.3	16.0	79.5
全道	男	74.0	75.4	90.2	10.2	74.2
	女	57.7	65.7	85.8	16.4	71.0
苫小牧	男	71.1	73.5	88.9	12.2	74.1
	女	54.9	62.4	86.8	13.4	67.5

小学校5年生		1日の睡眠時間が8時間以上	平日に学習以外で画面を見ている時間が2時間以上 (スクリーンタイム)	地域のスポーツクラブに入っている	体力テストの結果や体力・運動能力向上のために目標を立てている
全国	男	69.4	64.8	66.7	79.1
	女	71.7	58.4	50.9	75.9
全道	男	71.3	71.7	61.0	80.3
	女	72.6	67.0	47.0	77.1
苫小牧	男	71.3	70.4	54.8	81.2
	女	71.6	67.6	42.9	81.4

≪ 資 料 編 ≫

中学校 2 年生		運動やスポーツをすることが好き	運動やスポーツが大切	中学卒業後、自主的に運動する時間をもちたい	運動部や地域のスポーツクラブに所属している (複数回答可)	運動部や地域のスポーツクラブ以外の 1 週間の総運動時間が 60 分未満
全国	男	65.5	68.2	87.8	96.3	9.2
	女	43.2	49.3	76.2	69.5	21.4
全道	男	69.0	70.8	87.6	84.5	12.4
	女	44.1	50.5	76.0	59.2	25.8
苫小牧	男	68.9	66.6	87.6	76.4	12.0
	女	45.7	52.7	77.7	53.8	24.8

中学校 2 年生		朝食を毎日、食べる	1 日の睡眠時間が 7 時間以上	平日に学習以外で画面を見ている時間が 2 時間以上 (スクリーンタイム)	体力テストの結果や体力・運動能力向上のために目標を立てている
全国	男	81.6	72.5	76.6	74.0
	女	74.4	62.0	75.3	67.6
全道	男	77.3	72.4	81.6	73.4
	女	67.0	63.9	80.9	65.9
苫小牧	男	77.9	70.4	80.3	73.0
	女	67.7	60.1	83.5	68.4

運動やスポーツをすることが好きな児童・生徒の割合					
小学校 5 年生	男	71.1	小学校	63	60.15
	女	54.9	平均		
中学校 2 年生	男	68.9	中学校	57.3	
	女	45.7	平均		

9 苫小牧市スポーツ推進審議会条例

平成 26 年 9 月 19 日

(設置)

第 1 条 スポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号）第 31 条の規定に基づき、苫小牧市スポーツ推進審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(組織)

第 2 条 審議会は、委員 12 人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

(1) スポーツに関し学識経験のある者

(2) スポーツに関する事業に従事する者

(3) その他市長が適当と認める者

3 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第 3 条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により選出する。

2 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 4 条 審議会の会議は、会長が招集する。

2 審議会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 審議会の会議の議長は、会長が行う。

4 審議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(関係者の出席等)

第 5 条 審議会は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対し、出席を求めて意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出その他必要な協力を求めることができる。

(委任)

第 6 条 この条例に定めるもののほか、審議会に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

附 則

1 この条例は、公布の日から施行する。

2 苫小牧市特別職の職員の給与に関する条例（昭和 29 年条例第 9 号）の一部を次のように改正する。

第 1 条第 4 号中「及び中小企業振興審議会」を「、中小企業振興審議会及びスポーツ推進審議会」に改め、「専門委員」の次に「並びにスポーツ推進委員」を加え、同条第 5 号中「及びスポーツ推進委員」を削る

10 苫小牧市スポーツ推進審議会委員名簿

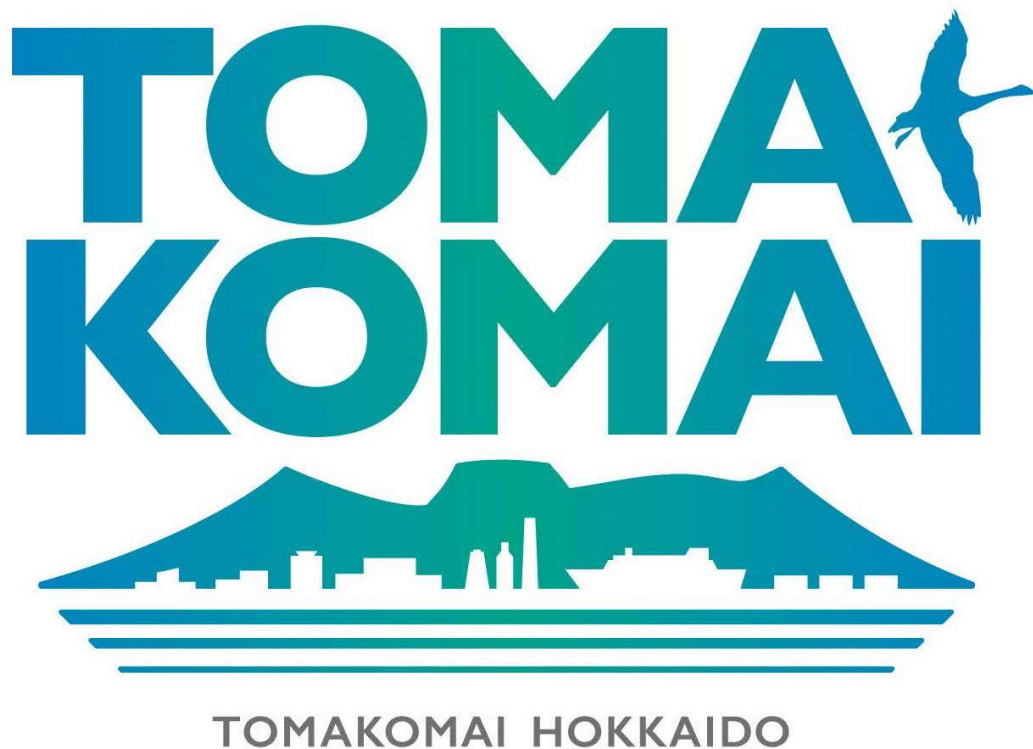
役 職	氏 名	所 属 ・ 役 職
会 長	本間 貞樹	公益財団法人苫小牧市スポーツ協会 専務理事
副会長	中村 誠宏	苫小牧身体障がい者福祉連合会 (日本軽金属株式会社 苫小牧製造所)
委 員	荒井 智子	公募委員
委 員	石田 憲一	苫小牧市中学校長会 経営部 部長 (苫小牧市立光洋中学校 校長)
委 員	伊藤 陽子	公募委員
委 員	金山 良平	株式会社オカモト 地域共創・フィットネス事業本部 アシスタントシニアマネージャー
委 員	鈴木 克憲	一般社団法人苫小牧市医師会 理事
委 員	中村 峰子	苫小牧市スポーツ推進委員会 女性委員長
委 員	西田 龍史	一般社団法人総合型地域スポーツクラブ とまこまい・あそび塾プランニングディレクター
委 員	藤岡 照宏	苫小牧アイスホッケー連盟 理事長
委 員	米山 知奈	北海道文教大学 人間科学部健康栄養学科助教
委 員	林崎 竹亜	一般社団法人苫小牧観光協会 常務理事

【令和8年3月現在】 任期：令和7年4月1日 から 令和9年3月31日 まで

11 苫小牧市スポーツ推進審議会等審議経過

開催日	開催回数	議 題
R7.7.14	第 1 回	(1) 苫小牧市スポーツ推進審議会の概要について (2) 苫小牧市スポーツ推進計画について (3) 苫小牧市スポーツ施設整備計画について (4) 苫小牧市スポーツ推進計画施策事業について (5) 次期計画策定に向けたアンケート調査の結果について
R7.10.	第 2 回	

※第 2 期計画策定までの流れ



第2期苫小牧市スポーツ推進計画

令和8年（2026年）3月発行

発行：苫小牧市

編集：総合政策部 まちづくり推進室 スポーツ都市推進課

電話：0144-34-9601

FAX：0144-34-7717

E-mail：sports@city.tomakomai.hokkaido.jp

〒053-8722 苫小牧市旭町4丁目5番6号